



門 凡 名  
編 1274  
卷 2



河内名所記卷三

孝徳天皇古廟	山田葛蒲谷	推古天皇古廟	山田方法藏院	葉室佛眼寺	敏達天皇古廟	妙見寺	用明天皇古廟	上太子古墓山	安福寺	片山	原山	五十村峠	田邊	國分	龜瀬河	青谷	高井田
同前	同前	同前	同前	同前	同前	同前	同前	石川郡	安福郡	同前	同前	同前	同前	同前	大津郡	同前	同前

河内名所記

三四



岩屋峠

石川郡

金剛砂

同前

九間半立石

同前

鶯之関

同前

大黒

古市郡

亀井

同前

飛鳥

同前

駒か谷

同前

圓明

安宿郡

玉手山

同前

安堂

大原郡

大平寺

同前

厚多尾畑光徳寺

同前

大原高尾峯

同前

清寧 天皇御廟

同前

平野 観音

同前

山ノ井 薬師

同前

橘嶋

美江郡

八尾木

同前

科長山 叡福寺 御墓山 太子の御母と太子と御后と  
 三骨一廟なり此ところを御廟とつくらせぬを此の推古  
 六年九月太子甲斐のくる駒まめ舎人調使丸を具  
 してあひてを中に入富士山よりあひ末世の衆生を  
 せんかたの冥地を御尋ありし時地より五筋の金色の光  
 り天よさす其所を御覽しけ北の河内國石川のこほり  
 碓長の山也誠は過去七佛は所まで大乘の法を説ひる  
 めんとあたま共いまた時いたらむして五字の妙文を以山  
 埋まらまをかゆへ五字の峯と名付あふとたり  
 三國無双の勝地なりと御墓をつかせぬ直に墓の内は

入ありこもまればしこをたてと宣ひけるとか名和列法隆寺  
 より御母の御棺を官人よりせまきまきおさめあかの  
 御棺のなかへを御廟の口よりおきあふとなり別は木生  
 つき若葉をむまび今よりたりてさかえをなす大乗  
 木と申也其以後衣更着下の二日に太子と后諸ともに  
 かくれさせあふを同一く一所におさめたてまつる御墓山也  
 常灯あり御墓の廻りより石佛四百九十軀在皆親喜の梵子  
 有弘法の御筆也けるとぞ左より浄土堂阿弥陀弘法の御作也右に太  
 子世五歳の御影堂有以内より代々の帝の御位牌有太子十六歳の植髪  
 の御影堂有如意輪親喜堂有山伏の普門石と云行い石有弘法の御作  
 の淵加井有科長神社九社有池の汀より弁天有頼朝の御石塔あり

寶物

- 一太子繪縁起三卷宮山門跡山攝家山公家衆以上五十一人之御筆
- 外題ハ寛文法皇様御筆
- 一同繪傳七幅土佐將監筆
- 一太子十六歳御影御長五尺太子一番一花一刀三礼植髪御影御自作天子記録あり
- 一阿弥陀御長三尺鳥御作
- 一如意輪親喜太子御自作堂有
- 一欽明天皇御安置佛舍利
- 一太子御自作地藏井
- 一用明天皇御自筆觀音經
- 一太子二歳南無佛御影自作
- 一推古天皇御自筆法花經安系行品
- 一弘法大師自筆心經
- 一善光寺如来写三箇浮檀金御長一尺八寸服立親喜有
- 一推古天皇御安置之仏舍利
- 一名月宝珠

一八祖相傳之佛舍利四粒有一太子未未記文刻彫のちふせき礎石アリ  
一塔再興の時古の心柱の石をへの下より佛舍利十二粒出全蓮花中ニ  
一山路殿草薺さくろどの笛一太子高懸たかま笛一牛玉一馬角其外略之

消しょう子しをうしと計けいははか山先たつ雲の行衛表らせよ

狂哥 法橋奇哉

二度三度光りハ地より天よきを妙てハないか上の太子と

御母と太子きさきまのこはか山まふもる人ひちまを也 三拜

夜もひひるもふた人多る海と御太子の法の光りハ絶ぬ常灯

狂哥 意朝 弘重

狂哥 浄久

聞しよりこゑに多えそ殊勝さハ三骨納書山墓山り

御太子の追善ならん五もりの峯にハひたとうくひその聲

短尺の雲間に五字の峯あるハ此れ句の上の太子なけ

芥をついて花と手向人此はか山 可清

鶯の経やふぎんのことばかやま 可正

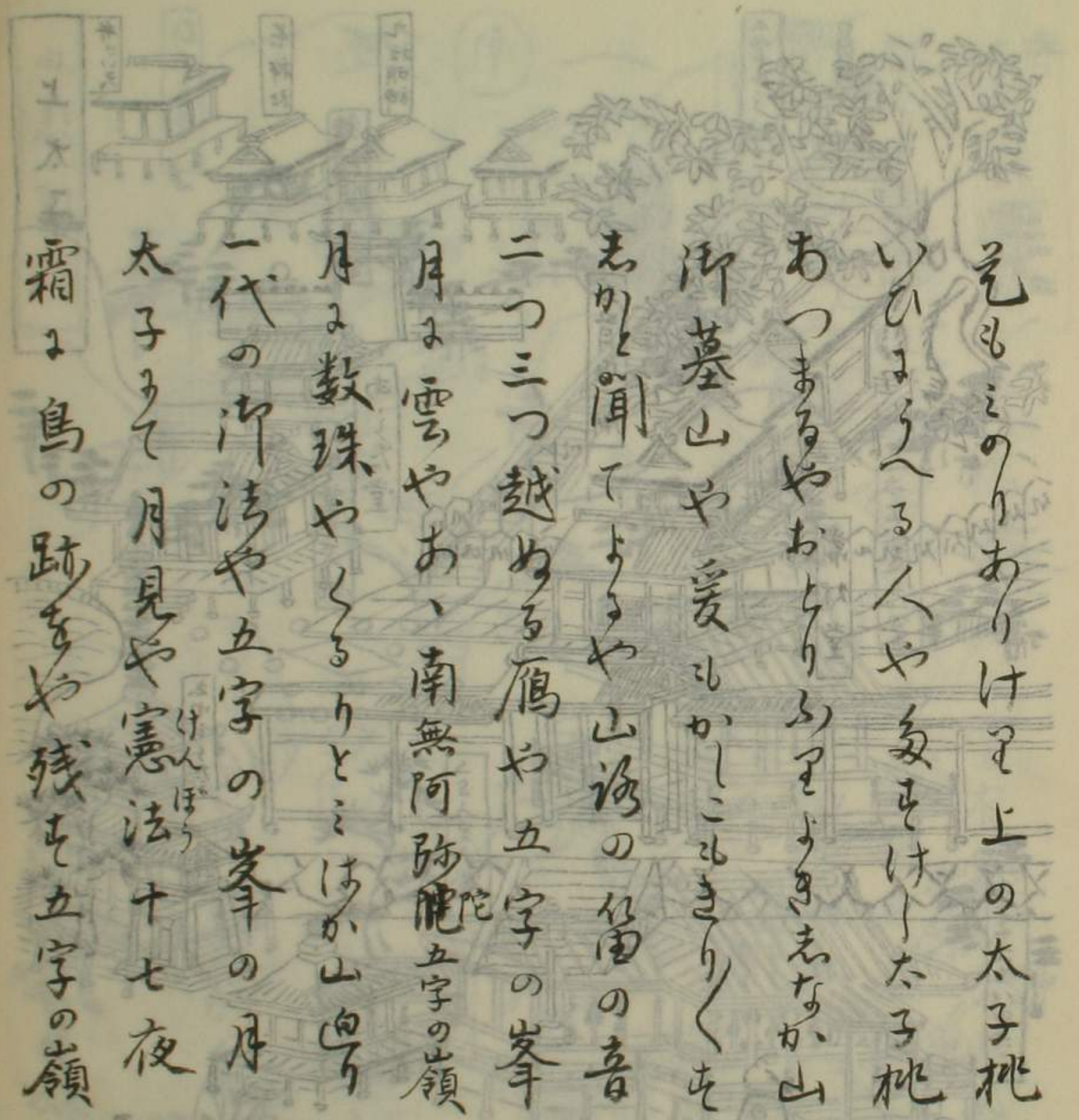
雪やねらん釈迦牟尼佛の五字の嶺 黒水

雪と月と花とやいつの山はか山 定紙

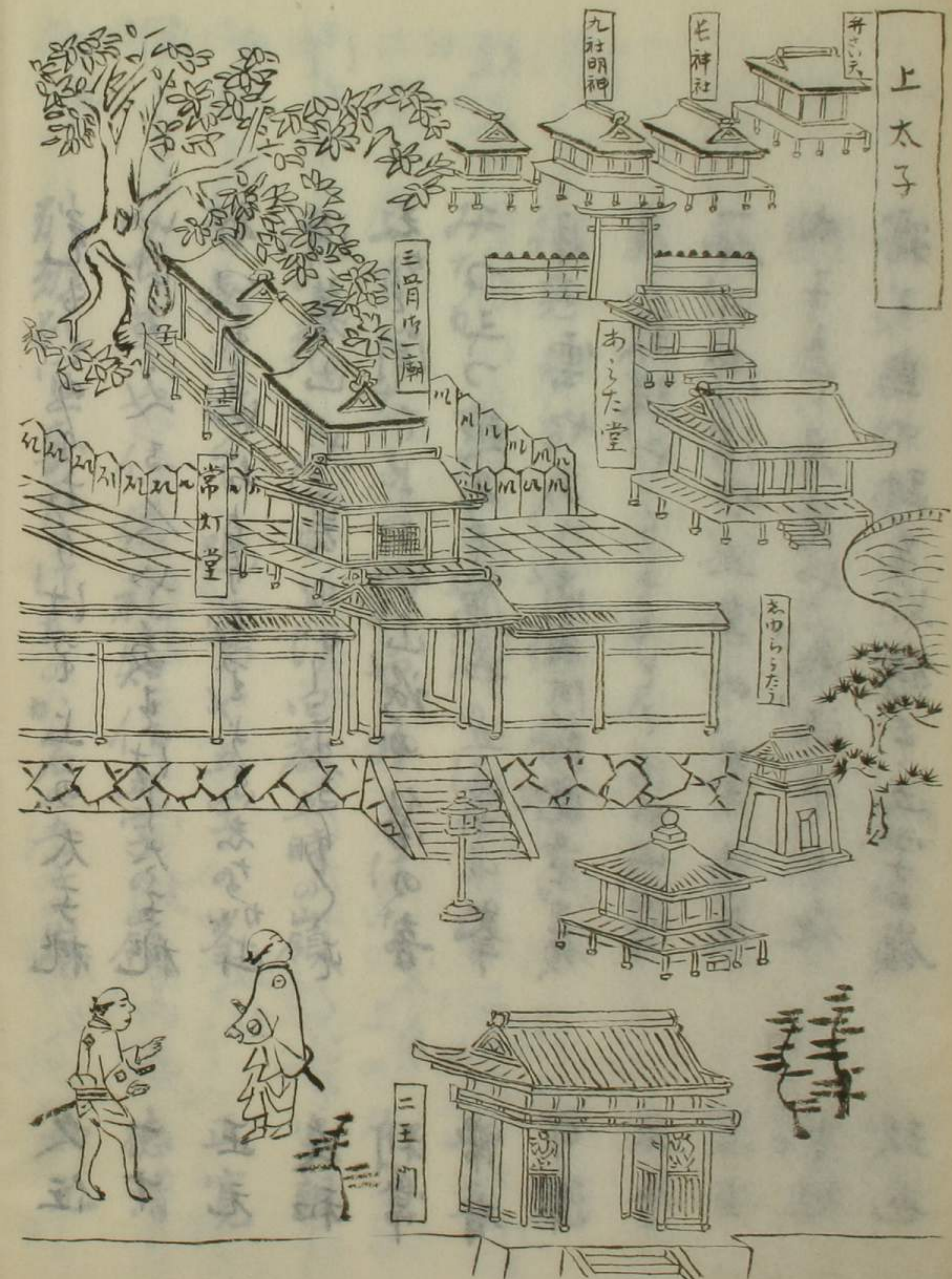
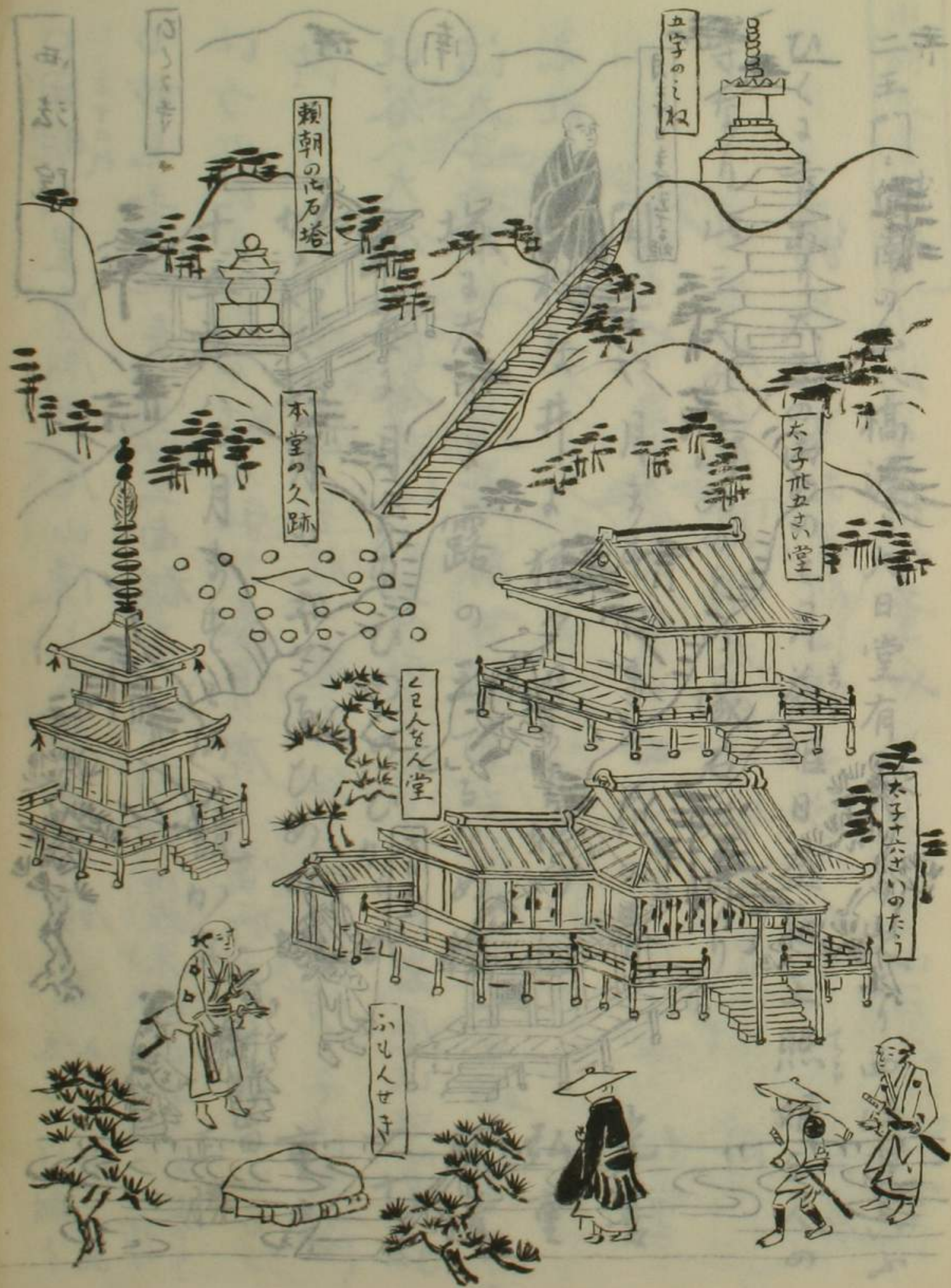
花見衆出立ふりより 科長山 河列山田 忠之

花子やふれ禁酒一日の 獻福寺 如元  
 樂ありせ鶯の哥や急い福寺 梵達  
 雨に花さとりやひらく大乗木 忌水  
 爰をまねとゆるそ太子の花もれ 立以  
 花見をる人や佛性因ふり 一利  
 みなわこの太子や法のはなの本 正音  
 上下のた子の影や月とはな 如貞  
 法の花もひもとけ日教立時の嶺 定親  
 南無のけて鳴鶯や五字の峯 正寛  
 みち草や仁儀礼知信五字の嶺 徳清  
 別効杖直身なけおのか名の五字の峯 如元

是もこのりありけり上の太子枕 久任  
 いひまへる人や多まけり太子枕 一十  
 あつまるやおとくりふそよま志なが山 正元  
 御墓山や爰もかしこもきりくを 友和  
 志かと聞てよまや山路の笛の音 利常  
 二つ三つ越ゆる鴈や五字の峯 常有  
 月も雲やあ、南無阿弥陀五字の嶺 可清  
 月も数珠やくもりとこはか山白り 正音  
 一代の御法や五字の峯の月 空玄  
 太子もて月見や憲法十七夜 重継  
 霜も鳥の跡をや残も五字の嶺 致也



河列大田









○敏達天皇<sup>ひんだう</sup>御廟<sup>みうら</sup>葉室村<sup>はむろ</sup>の山に在 寺前<sup>てらまへ</sup>五本松と名不有

○葉室佛眼寺<sup>はむろぶつがんじ</sup>十一面千手觀音<sup>じゅういちめんせんじゆくわんおん</sup>四寸二分<sup>しすんにぶん</sup>賴朝<sup>らいぢょう</sup>の御守本尊<sup>みもりほんぞん</sup>と侍<sup>まつり</sup>る

此寺にいふ佛眼上人といふ僧あり此沙門の眼よりつねに

金色のひかりを其時の帝<sup>みかど</sup>花山院十九歳にて出家の

御望ましまして権化<sup>ごんけ</sup>の師を御尋出<sup>みもと</sup>折節河州太子の御廟

のあたり葉室といふ所にて乞食の沙門其眼より金色の光

さすを勅使<sup>ちよくし</sup>御覽<sup>みらん</sup>して権化の聖王と御渡りして召具して

上洛<sup>じやうらく</sup>を帝へ其むね奏<sup>そう</sup>し奉る帝きふしめし御よるこひ

はかざりなし宣旨<sup>せんしゆ</sup>より眼よりひかりさすをへ八則<sup>はつそく</sup>仏眼上人とし

三月十五日は上人を請<sup>まね</sup>ひて師<sup>し</sup>匠<sup>じやう</sup>より頼<sup>たの</sup>み奉<sup>ほう</sup>る御

おろし御法名<sup>ごほうなま</sup>を入覚<sup>にゅうかく</sup>と申奉る十禪<sup>じゆぜん</sup>の玉軀<sup>ぎよくたい</sup>は麻<sup>あさ</sup>の御

衣を着<sup>き</sup>し受戒<sup>じゆかい</sup>をたまりぬ佛眼上人を先達<sup>せんたつ</sup>して諸

国の三十三所の觀音へ法皇<sup>ほふわう</sup>順禮<sup>じゆんらい</sup>あそはさる是順禮

のはしまり也三熊野<sup>さんくまの</sup>那智山<sup>なちさん</sup>如意輪堂<sup>にぎよりんどう</sup>初め御参り美濃

国谷汲寺<sup>たにくみ</sup>まで参り納めあひ大内へ御下向あり佛眼暫<sup>しばらく</sup>

是日あり度々<sup>たびたび</sup>三熊野證誠殿<sup>しゆくまのしやうじやうでん</sup>のあたりを有法師<sup>うへふし</sup>より

くくろる御暇<sup>ごひま</sup>甲と仰きて、かきけをやう失<sup>あは</sup>れひけるとそ

心あらん人の觀音<sup>くわんおん</sup>をんかうまたまると也現世安穩<sup>げんぜあんゑん</sup>後生善

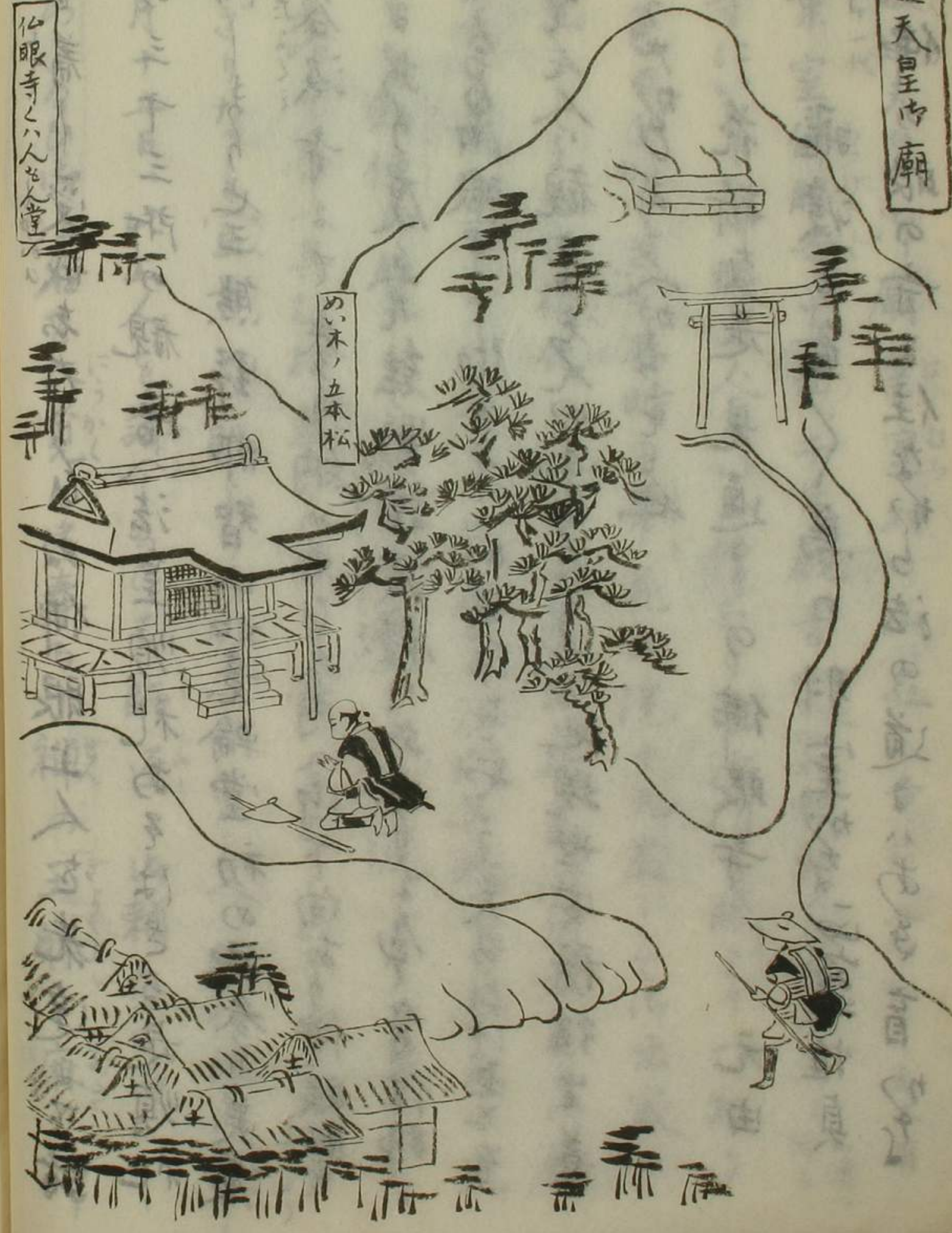
听<sup>き</sup>うたかひあるべからむと也

花折な是<sup>はなをり</sup>見通<sup>けんつう</sup>一の佛眼寺 元由

飛渡<sup>とびわた</sup>る色く鳥の羽室<sup>はねむろ</sup>かな<sup>かな</sup>二葉<sup>ふたは</sup>葉<sup>は</sup>惟貞<sup>ただまこと</sup>

狂<sup>きやう</sup>奇<sup>き</sup>佛の眼の寺は住なから法の道はあき盲<sup>めくら</sup>かな

敏達天皇御廟



○山田村方法藏院を役行者和州當麻へ移す今のまんな堂是也

○推古天皇御廟南山田村領在比村は系あまのり

まいてんのはか守らハ梅なり  
弘重

狂哥  
正音

かきつはたの花の色香まどちといん、猶うつくしき山田紫

日  
種好

ひよつと来てたつきもあらぬ山田野は是ハ扱、郭公の聲

山田そめのむらさきか松まきり藤  
言子

金銀花咲ちりり乃山田うさ  
政公

山田もる僧都もさるやあかぬ染  
忠貞

紅葉もるや是も山田の茜染  
安求

野古入

推古天皇御廟



山田菖蒲か谷毗沙門あり

萱のせどあも下もあやふか谷やすま草

○孝徳天皇御廟山田領山北有慈雲菴十一面観音太子御作河州山田 重勝 内長 三尺七寸

狂哥三十七代 正之

親孝孝かりとく天の月澄め山田の水もちとりにうらむ

孝徳のたえぬ山田のこのりかな 弘重

○岩屋峠大岩屋有又五六丁下 但一本石 三間余有 又岩屋有地藏有 忠正

曼茶羅まんだらか十三く足んぎう花のたう 吉勝

○二上か嶽西原河州山田村領内也此谷より金剛砂出る 常住のとも 火八月か石の塔 久任

○二上か嶽西原河州山田村領内也此谷より金剛砂出る

○二上か山九間半の立石有月山根の深き老れむれ出るや 金剛砂 金剛以仙

○二上か山九間半の立石有西谷根の深き老れむ上太子の持山也行所石也石の上、笠松有

ふる雪のつもりや四五尺二丈か嶽 性空

○山越の弥陀か二上の雪佛 政公

○鶯の関山田峠也と云傳へ侍る 康資王母

我思ふ心もつきぬ行春をこさてりとのようくひものせき

狂哥 一利

鶯の関の戸口をあくるより山田の里は春やいりて

鶯のせき所はさしり一めんまたてちらへたる軒の 次重

鶯のせき所はさしり一めんまたてちらへたる軒の 自延

鶯のせき所はさしり一めんまたてちらへたる軒の 友和

法花経と鳴つる聲をいく春も耳にやとめん鶯の関

鶯のせきの戸のちのくまぬきハ梅の古木をせよと思ふ

鶯の関のわたちやわさしりかけたるつむのさくも梅

ときり竹の表けるさ、葉ハ鶯の関またで置大鳥毛か

長久の治まり多里しうくひを此関も戸さ、ぬや世そ繁昌

鶯のせきそ 春の声

歳旦や鳴るくひ中の席は 香隆

鶯のせきそ 以春

歳旦や鳴るくひ中の席は 香隆

鶯のせきそ 以春

歳旦や鳴るくひ中の席は 香隆

終極や鶯の関の番道具  
 周國  
 聞とむる聲うくひもの関所哉  
 江戶 重継  
 何者そ鶯の関人來く  
 如貞  
 鶯の関の戸さそやうごのに  
 意朝  
 鶯の関汝れ鳥や自身番  
 永重  
 鶯の関守なれや花の兄  
 林城  
 鶯の関の戸ひらや明の春  
 信之  
 花笠をぬけうくひもの関の前  
 松都  
 鶯の関守の名やうたのまけ  
 之次  
 鶯のせきかくとなれ梅ほりし  
 定久  
 鶯の関まよく引霞かな  
 良綱

鶯の関の番屋か窓の梅  
 義元  
 鶯のせきくなくやひから聲  
 正信  
 短冊や実うくひもの関手形  
 伊次  
 鶯の関をもと成せよんし梅  
 元由  
 鶯の関の戸ひらく梅花の  
 政安  
 花待や氣も鶯の関の鳥  
 直房  
 鶯のせきをそへたか梅花の  
 筈水  
 梅もや鶯の関の番か  
 一十  
 鶯の関の戸ひらやあ羽かい  
 久任  
 鶯の関そとむる奇人かな  
 正勝  
 鶯の関ま聞人ともれそ  
 如元



三上山獄

立石九間半あり

のそぎ山石

は谷より二人かき砂おんたり

石の塔

ちまう

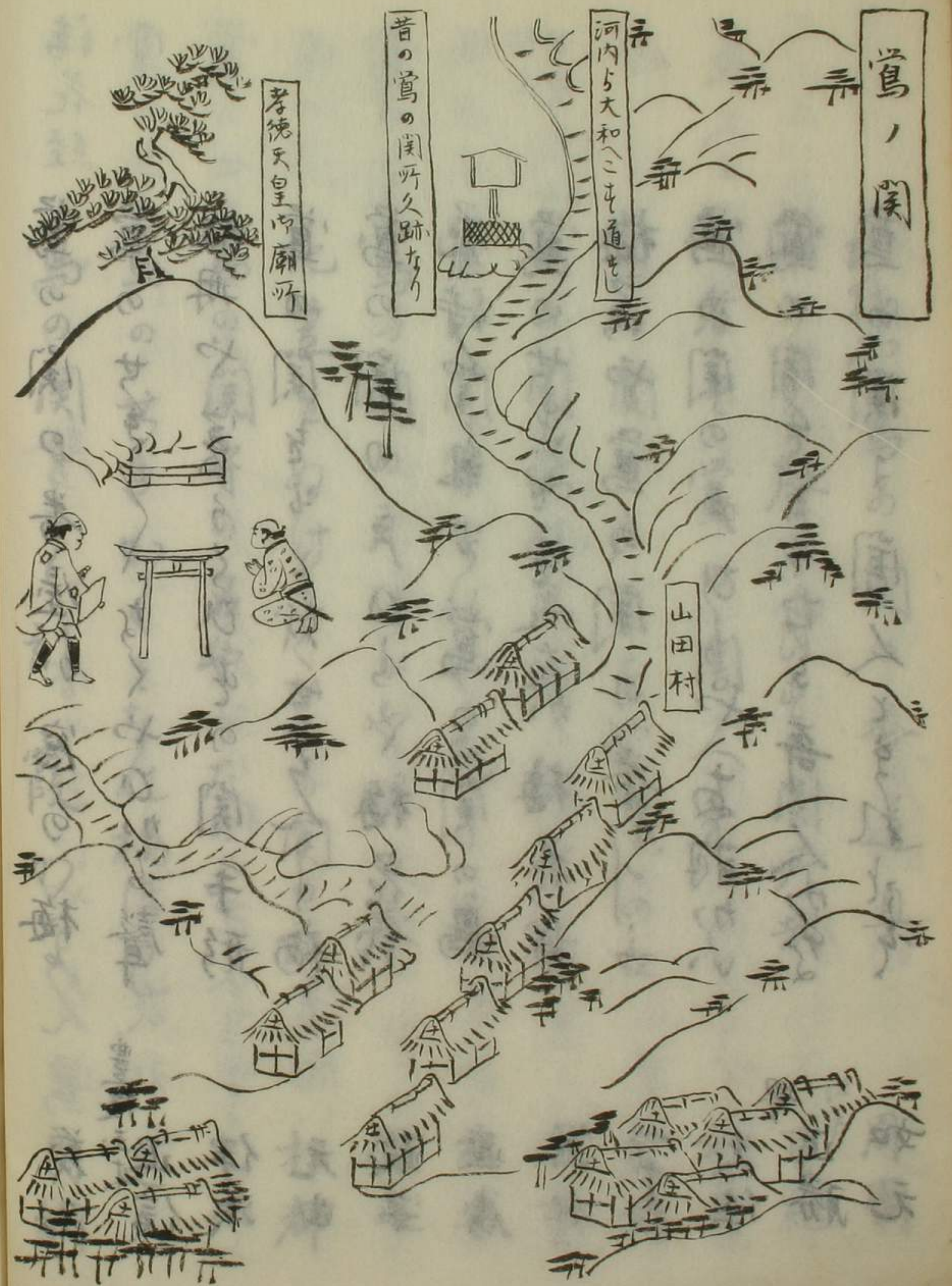
くまの石名

めうげん寺観音

岩屋こへ

岩や

岩屋



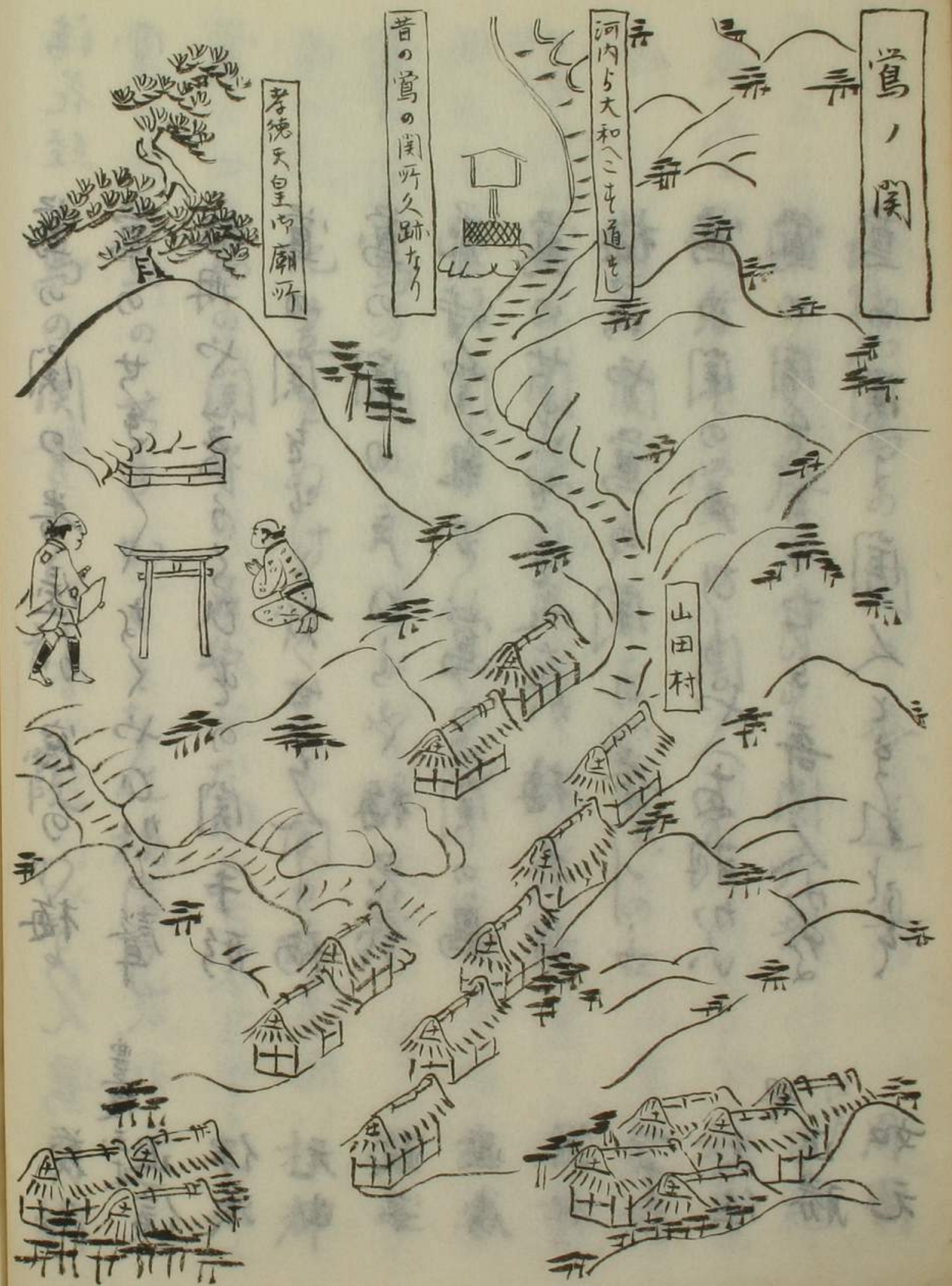
鶴ノ関

河内と大和(こも)を通る

昔の鶴の関所久跡なり

孝徳天皇御廟所

山田村



鶯の関守屋花の鳥 おと  
 鶯のせままはりたかともり聲  
 鶯の関こりこなる 似た羽の  
 鶯のせまや 蔭生の小鳥 綱  
 鶯の関てやゆるせ 梅法師  
 鶯のとま聲なりや 鳥合  
 鶯の関吹へよひはり 笛  
 鶯の関のそへ番か 郭公  
 鶯の関は 飼ひをけ時の鳥  
 鷹匠や是うくひ屯の関破也  
 節分やけふ鶯の関の聲

行廣  
 清信  
 秀立  
 正安  
 鉄牛  
 光之  
 定親  
 利房  
 重良  
 檐板  
 樂也

○大黒村毗沙門堂有山王権現の社有

○壺井

壺井村河内守頼信の在所也 伊与守頼義義家代誕生  
 所也 頼義義家奥州の朝敵貞任宗任追討の時大  
 かんばつみて水が濁し則伊勢太神宮へいのりかへ  
 八則時清水わき出諸軍勢のんとをうるほし軍を  
 勝るふ則其水をかめのつほし入井をほり井のそ  
 こにいけそれより壺井と号す也 八幡の社まきを山号し  
 石尾山寺号し花林寺頼信頼義義家三代の廟所有通法寺  
 頼義の菩提所千手観音大日鳥の作 昔はからん所  
 今も堂有八幡の社僧住す也  
 狂歌



小米花くたけてちれハクククハつほ井の道ヲ踏迷ひけり

同 大日の本尊鳥の作

正音

通法寺大日本まかくれなきほそんかけたと鳴鳥のさく

若水を汲逢の矢のつほ井かな 香隆

大ふくのお茶の水くむつほ井かな 義元

香をこのめて匂ふハ梅のつほ井かな 好貞

友と見人なり化て壺井の山櫻 玖也

水も世もおさまる春の壺井かな 愚蛙

花がどのちるや寛永通法寺 如貞

○大黒林のめハ涼ハ薬の水の壺井かな 自延

○飛鳥

かけ涼ハ壺井の水ハ神ニあり 雲廓

咲ハ術ハ壺井ニ生る仙翁也 久任

月日光る壺井や仙の住所 定久

壺井ももうつる月弓やハ幡 梵達

月の弓はちつ矢さきハつほ井かな 林城

月弓のほこの雲下の壺井かな 唯正

水よりハはきるお茶の壺井かな 玖也

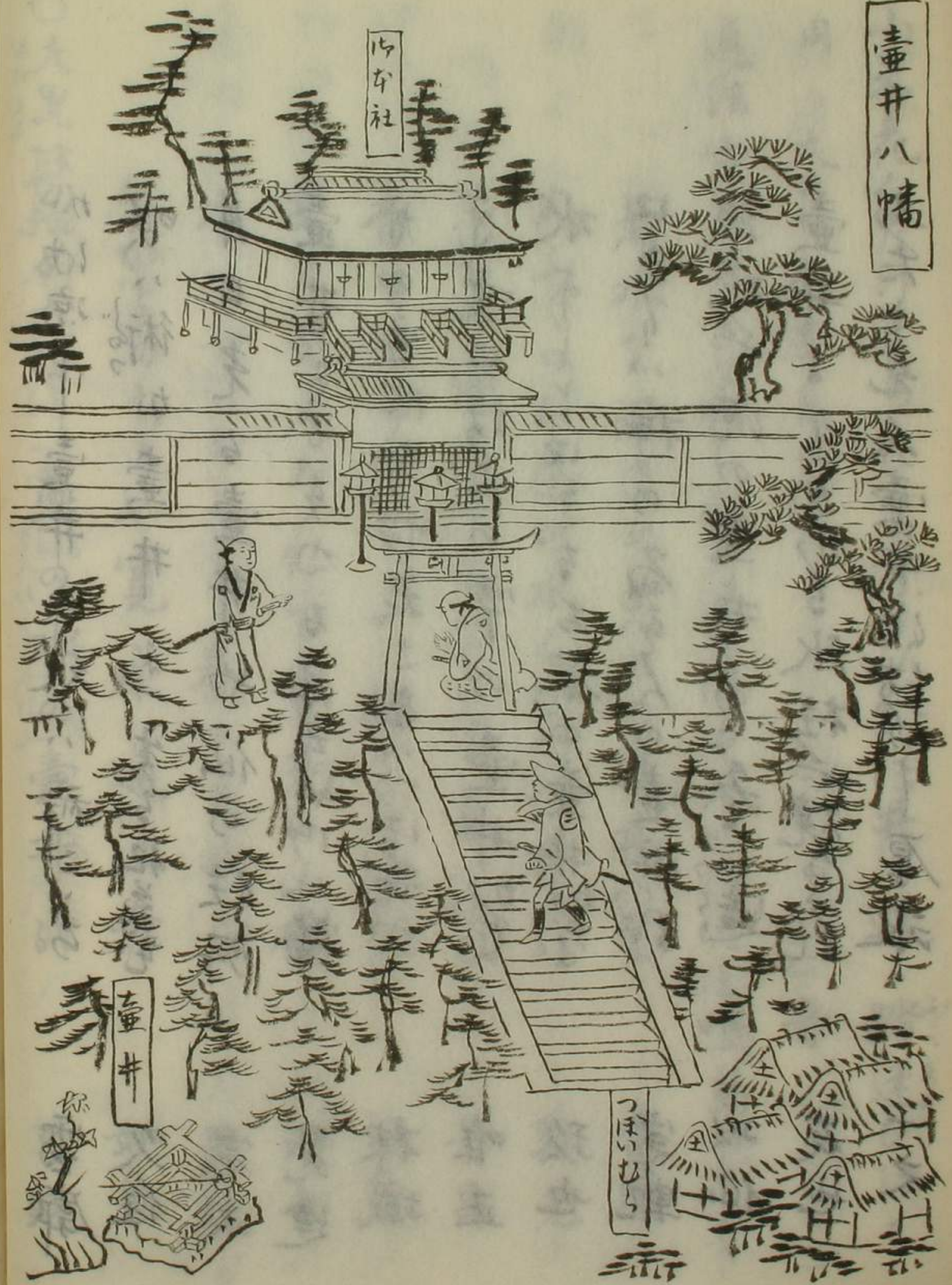
はきりハ神のゑもんの壺井かな 定軌

汲水や酒の壺井の冬造 以仙

壺井ももさかる氷柱や焼をこれ 友也

壺井ハふたと見人壺井にはりハ厚氷 一之

壺井八幡



○飛鳥村祇園牛頭天王最初の座の所也是によりて  
 祇園最初牛頭天王と礼拝申と也宮二社在行基并の開基也  
 古へ常林寺とて聖武天皇の内祈禱所にてありけるとそ

最中ハけふかあまかの花さかり

河州山田 重勝

○駒か谷太子富士山より碓長の山へ内越の時分此谷は駒  
 のりすへふ其石は駒の足形あり格は駒のつなき有しと  
 かやさるにゆつて此所の格は葉なきと申傳ふる推古天皇の内  
 祈願寺山号ハ十六山金剛輪寺安養院といふ釈迦堂あり  
 座像より御長四尺五寸太子の内作十一面観音是は太子の内  
 作なり御長一尺一寸薬師如来并文天在三所権現の社まき

則武

狂哥  
腰につけしひょうたんから出るなる駒か谷よそのむ花見酒

同 一有

咲花もわかてちりてんくと引三味線のこまかたよかも

同 自延

ほと、きを今一聲のき、たさに山路よつなく駒か谷かも

同 及次

嶺より駒か谷 危詠むれば物をこくして身ふるむや立

はらあてか駒か谷あひ引霞 良綱

もえ出る草をやかいの駒か谷 黒水

はやされていせむや春の駒か谷 歩月

遊山よや春のひま行駒かたよ 道意

大場曼  
ほくらまびく名い何を花駒か谷 合周國

花を行やいさむ心のこまか谷 西謙子

駒かたよの玉手ぬきり花よ凡 正海雄妻

ちる花もおいかけて見よこまか谷 信昌

さえつるや鶯なしてこまかたよ 意朝

駒か谷うちもき、たやくつて鳥 好春

駒か谷よ夕かけてなけくつて鳥 野鹿

駒かたよかつ吹風やあぶはらひ 隆玄

金銀の花や将基のこまかたよ 政公

飛車といふ駒か谷かや夜の月 每雄

北風よ行やかひら毛こまか谷 信道

旁りりー夜やまのつくるの駒か谷 時春

旁りりやけふるたをこのこまか谷 善心

響虫の名所といはん駒かたな 重之

駒か谷はたちきやせんくつと虫 政長

かけ出て見るや月毛の駒か谷 定軌

嘆乱る尾花あ毛かこまかたな 一之

あくるや雲あばやき駒か谷 鉄鋼

松や鬼の目つき毛の駒ヶ谷 時春

○圓明村白山権現の社在たハ八幡子守

右ハ弁天八王子以上五社全塚と云山有

月ハ猶名も圓明のこといかな 重栄

大坂軍の時片山玉手圓明 此三村ハ道明寺表の合戦場也

○玉手山 勝松と云大木有此ふもとにきして後藤又兵衛

年房五十六歳まで討死志侍り又薄田隼人正兼相ハ

名乗をかりて高実と云ける是も此所にて討死長沢

七右衛門是ハ又兵衛組頭までありハ是も同所にて討死其

外多の軍兵 并ニ寄手の兵も大勢打死志侍るより申傳る

○玉手山安福寺ハ行基菩薩の開基 おく珂憶和尚の再

奥の地也 寶又慈覚大師六字の名号の内ハ

三世十方一切の佛を書あらハハ多ふ也縁ハ恵心僧都の

縁起を書給ふ日本無双の名号あり又三国相傳の

佛舍利有釈迦如來らほつゝの舍利と傳起あり

又初瀬の観音と一躰の観音あり其外灵寶多し  
毎年三月十日開帳有不断念佛道場也山上玉の  
井と云名池あり鎮守牛頭天王山玉の塚穴廿余有  
一ツの穴ハ八てう敷の間奥有由四十八申傳まつし尾と云所有  
狂哥 玉手山勝松 直房

軍にやさそから松のけふり迄のり乃やう螢もゆらん

日 葦葉

鉄炮の玉手の山のあれハこそ昔軍勝松のいふ

とえ置や巖の露の玉手山 可勝

雉子や子をあれおらひの玉手山 行廣

大社軍 花の凡見るやちたの玉手山 勝信

諸鳥にや聲勝松の郭公 珂琳

螢火を取や水精の玉手山 羔水

身より出る玉手山河州不かや飛螢 忠之

稲を置露露やほさつの玉手山 芳昌

月うつる露や夜光の玉手山 久任

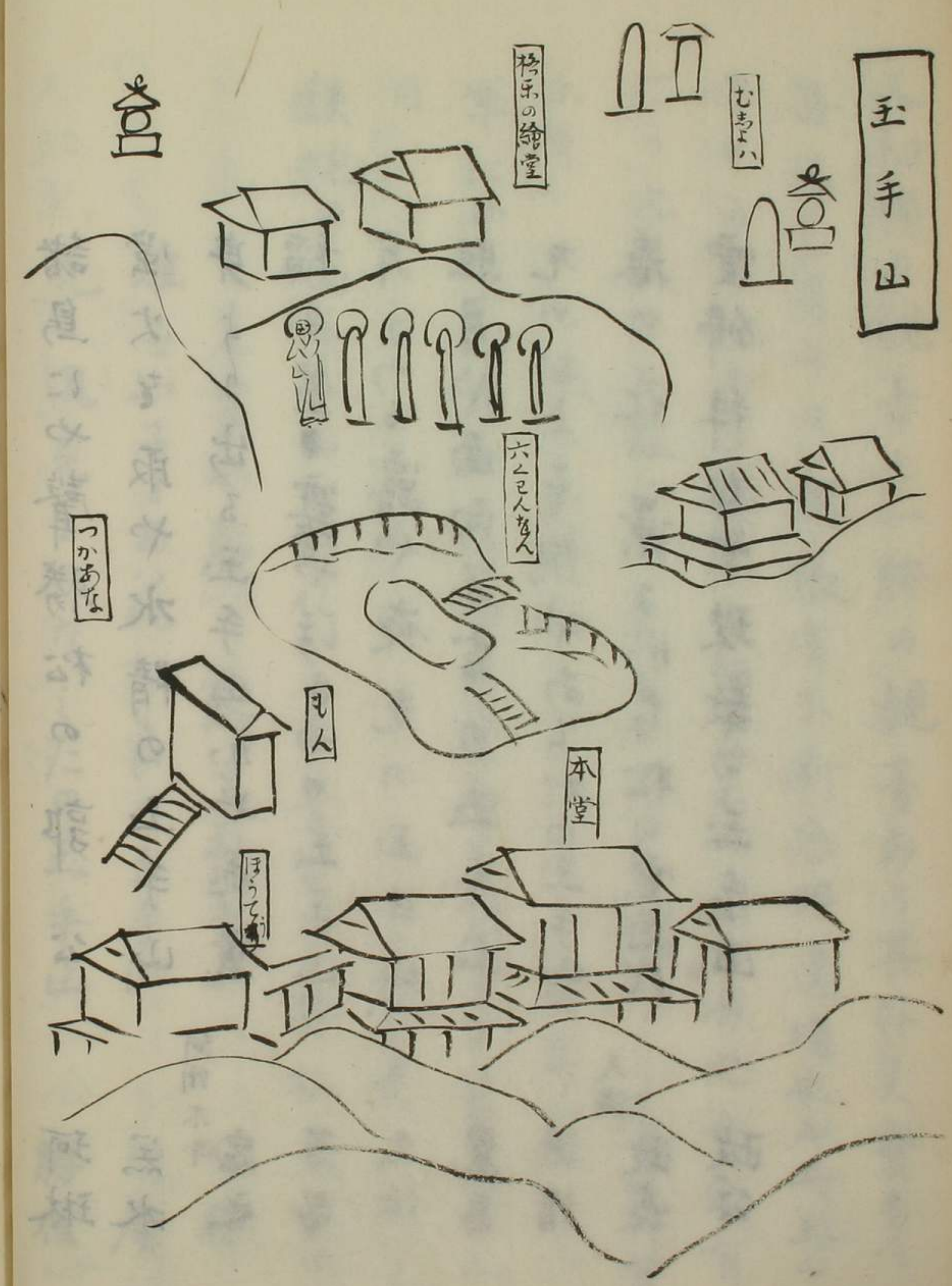
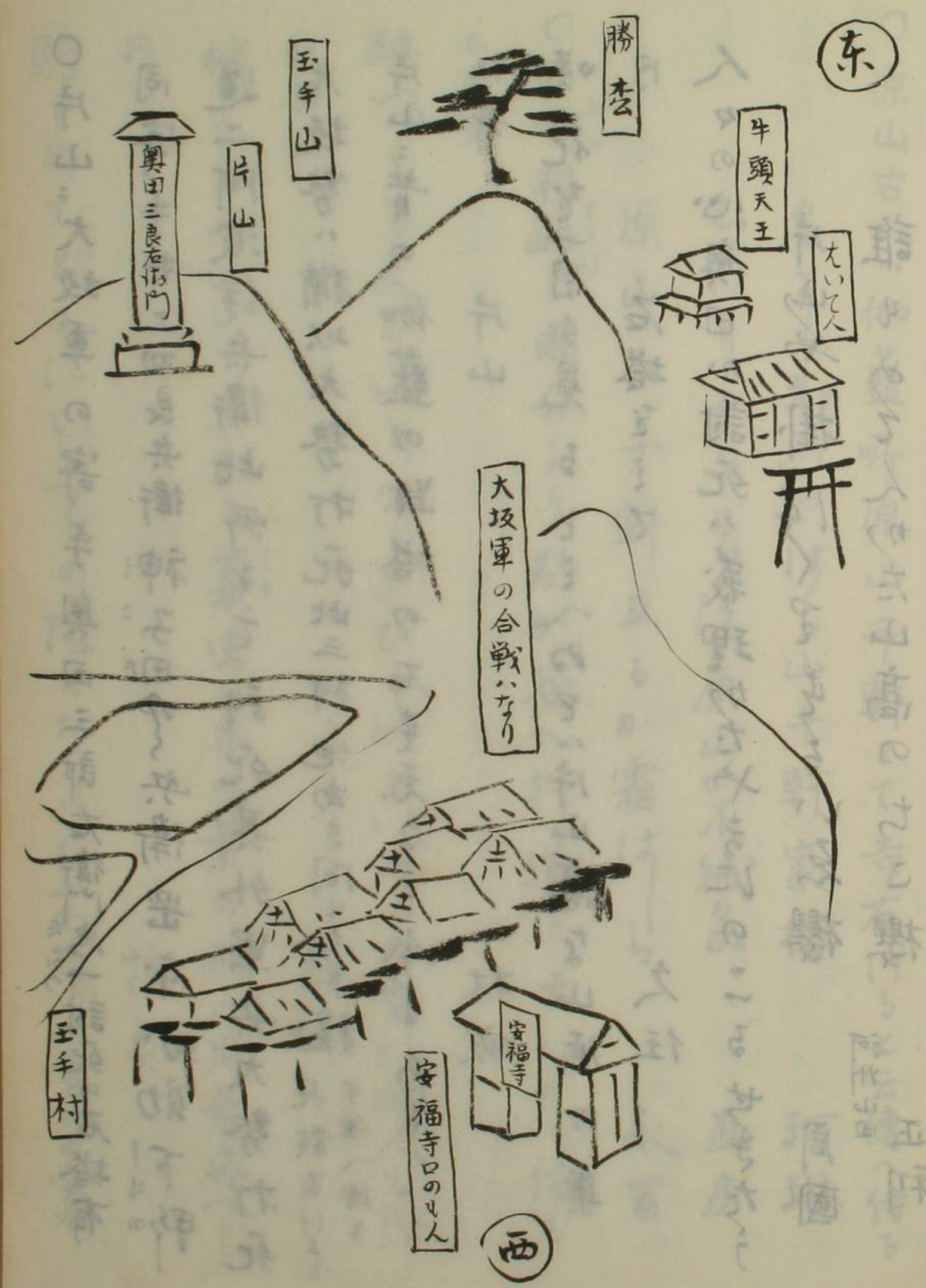
照月や面向不肖の玉手山 豊昌

丸めおととも凡やあられの玉手山 徳清

春の花の景天満かち松の雪見所 政長

雪佛拜むや珠数の玉手山 政公

玉手山



○片山ニ大坂軍の寄手奥田三郎右衛門忠一討死の石塔有  
同寄手井上四良兵衛神子田中兵衛密本か助下野  
道二阿波伊兵衛此所にて討死其外軍兵大勢打死  
大坂勢ハ猶以大勢打死此三村地あき間もなき程死骸有けり  
申傳へ侍る  
片山ニ昔の伽藍の跡塔の石を急なと今日あり

狂哥

片山

林城

咲花を一目見るとこへぬとハ片山高な山原の奥

月

石塔をきて

久任

人々の心奥田か討死ハ義理かたやまにのこるせきたり

片山や掛はくまあるい急櫻

周國

誰もめてんかた山高のちこ櫻

河州山田

正利

○原山古ハ伽藍所原山千軒とて寺有けると云傳へ侍る

名ヲ北ふやほら山千軒家櫻

珂琳

志けりそふる法原山か木織多

直房

原山ニ千軒立るか霜はしら

永富

○五十村峠いふら  
とうげ國分より駒か谷へ行道と云つたへ侍る

五百番

跡つくる人もいとハきびしやといふらの雪に向人も

狂哥

良弘

梢よりついでくくれる蓑出ハ木の葉の雨の用意成へし

月

惟貞

駒とめてどこにいづらの陰もなきこふあたりの雪の夕暮

○田邊村春日大明神社有又岩屋稲荷大明神社有

あがりさかり藤のたな人の花見の 久永

狐火と人はいと屋の堂かな 同

○国分村観音寺正観音弘法師作かな佛内長はたか辻所あり

本俵積置里や大こくふ 珂琳

花軍まもや志る一のたか辻 河州国分 重勝

河内もめん相虫れ者やまたか辻 成明

○龜瀨河河中に龜岩とて龜のまぐさなる大石流に向て是

あるより古より川を龜瀨川といふ傳へ侍るは所四十八の

名石有なるおほきゆへあまき書付侍る雲岩けし間鉦子の口

瀧の名ほし岩小龜岩扇岩蓮花岩高岩笛吹岩ほとけいは

きやうも里岩屏風岩三つ岩のぞき岩からうと岩より

かま岩屋川い岩くくがみちがまかみち大黒岩弁天岩

狂哥 淨久

松竹も山に志けりて鶴まへ一万ころつきぬ龜瀨川かな

日 葦葉

龜瀨川流る水の酒ならハ鉦子の口の瀧のやせん

日 直房

君か代ハ千世もや千世ハ万年もこうを經ぬへき龜いほは

日 友和

鶴龜瀨れんけか岩佛岩のりのいえれそありかたま

良弘



狂哥  
大黒岩急ほけ岩着て能をせ、扇岩あり笛吹岩あり

日 則武

山人の朝夕食をたきゆる魚ついで岩間にのこる淡雪

日 秀綱

人かまゝ思案をまゝいぶむ哥はまゝに猿の名ほ岩かな

日 良弘

かまか淵のそ敷の岩は居る小壘萬代かけてかうやへぬらん

日 友和

万く劫経へき壘瀬のからぬ今此市代のため石そか

若水をとめ蓬萊の壘瀬川 芳昌

声の能鉦子の口やうたひ初 周國

山水のかきこ絵なれや屏風岩 久任

うらなる筏や算木壘瀬川 一樂

蓮花岩はけふ鶯やのりの聲 良長

一目見はや花の浮木の壘瀬川 永富

くらか淵の岸はゆるや米柳 政公

花かたか鉦子の口は蝶めおと 浄次

くみよるはてうしの口のかきこい 遊女 藻川

桃の酒はてうしの口の花見代 政公

嘆やかくる佛岩はも守ま草 吉勝

いく春もかふるまひ鶴や壘瀬河 直房

螢火は燈明なうら 佛岩 扇斗

雲岩は飛一 堂や星のかけ  
水鶏もやてうしか口をたく音  
鴉つかひのかくまや消てくらか潤  
淵の奥もうかひあかや蓮花岩  
川波も渦や舞ぬるあふき岩  
万年も泉はつきど壺瀬川  
あふきとすしあまが岩清水  
高岩も玉のうてなかす、床  
扇岩はしるかなめか露の玉  
佛岩や葛衣着てけさ乃家  
川波や月をたゝめる扇岩

河州国分  
則武  
重勝

政公  
直房  
器水  
良玄  
政長  
正元  
好春  
徳清  
唯正

置露の玉や志や利く佛岩  
置露の玉はらほ川か佛岩  
めど萩や錦志からむ壺瀬川  
によつと出る水の月をやのそき岩  
雲岩の絶間も出るや水の月  
とまりなけ屋つつい岩は火焼鳥  
紅葉鮎もはるかに照せくらか潤  
山上ならてや冷やのそき岩  
酒といはんでうしの口もふる霰  
三つ岩は一はいかゝるやむつの花  
汲水の氷も壺瀬やたくきか

嘉任  
可勝  
以仙  
珂琳  
永富  
政公  
常征  
粧子  
富吉  
同  
定久

龜瀨川甲ほと堅くあつこほり

辯愚

踏てわたる塩背や恩の厚水

致也

○青谷中山先達廿八品の行所八大金剛童子の社あり

○高井田伽藍の旧跡有今正観音小堂在しろさか白坂大明神の社

河はたままきは社の前の大河をて住吉の社勢代十日間

水よりせりあひ塩より湯より住吉を冠を着るふり而り住吉の社勢代十日間

○安堂村古ハ伽藍所之由今ハ小堂ハ大日如来在ス

○太平寺太子の内建立七堂伽藍の旧跡也寛永の比

里人本堂の跡ありかな佛の如意輪観音掘出小堂入奉る

書初や治る天下太平寺

嘉任

汲そむるかきこや天下太瓶子

定軌

○鴈尾つら畑松谷まつたに光徳寺人五十四代圓融法皇の内

建立東廣山照曜峯寺といへる伽藍の旧跡時の院

主を法圓大法師といへる其後安貞二年のある三井

寺の碩学俊圓僧都和州信貴き毘沙門灵夢を得

て後堀河院へ養養聞せしめ堂塔造営し給ひ則勅

宣よりて照曜山光徳寺と改め俊圓僧都住持せ

らる俊圓後に安居院の聖覚法印にあひて念仏

宗を聞終りハ親鸞聖人の御弟子となりあひて松

谷佛念房と申けり是當寺の元祖といへり本堂をつら厩林

堂共又護念堂共号ス本尊ハ阿弥陀立像ハ長三尺ハ厨子有

圓融法皇の内安置佛淨藏貴所の内作女人おんな娠身平産

の灵佛として女人一たびは本尊に頼をかくれば難産をのかれて  
平産の奇特ありまを由来有堂の傍に龍水福井として  
名井あり後の山は法主佛念堂の旧跡有は堂に圓融法  
皇の尊影昔の院主法圓  
大法師の作木像ありし也其内影今有西の方の峯に  
佛念房の内廁所代々住持の廟あり叔松永惣臺の内母儀  
當寺の檀那なりしゆへ石塔有良の山は鎮守照曜權現の  
社有寶物ハ四十八品の什物として色々有といへ共数おほき故老かたし  
又當山より東の方に子安の地藏法圓  
内作有是も女人平産の利益  
おほきまをそと其後一社三所の宮有又十三重の石の塔あり  
叔當山より安堂村の方へ出れはうはなり石長持石ほう石より  
かく石からうと石といふ岩あり又なる瀧としてまじき瀧あり

狂哥

清次

産の紐とくやめ松のことり子をそたつるためのよりかくり岩  
月 秀綱

よりかくりいれをきいてやい志けし詠りけりな三五夜の月

則武

志同やうまんと何をかきしてちへきそ長もち岩に雪のおほへハ

及次

賤同しきも頼まハ子安の内地藏のあるにつけてやよりかくり岩

蛇くちぢりも子をうめ寄かくり岩の際きり 政公

咲たりな長もち岩の桐の花 吉勝

掉さほ岩はほをや結し水衣 久任

谷大



はらむ福は子安の地藏ほさつわ 則武

ほそ引か長もち岩の葛かつら 天満 政長

○大縁かた村春日大明神社在大西寺として堂塔の旧跡あり

高尾峯にいざり松の大三葉の松也 大岩のあひより生出たり

狂哥 久任

いざり松両方より見る人ハ右やひたりの長者なまらえ

あふのくやとつと高尾の之ぬの月 正寛

夕やけハ高尾の峯の紅葉ハ 常有

○清寧天皇御廟坂さかと門原陵大縁那平野の山の内

傘松の大木の所ありけるとそいひ傳へ侍る

○平野村十一面觀音ゆ長一尺 二十五分行基作松隣寺鈴不正三建立也

狂哥 久任

はむもつれ枝もたハ一一つた紅葉是や名ハあふ朱の松

説強々からかき松の蟬の聲 政公

見渡せハまつ平野も見るも紫 二笑子

山はさそ平野も見るも紫 仲也

○山の井の薬師如来行基作醫王山薬師寺と号す

狂哥 良賢

山の井の蛙の哥のやまひ迄薬師如来やなをーたまん

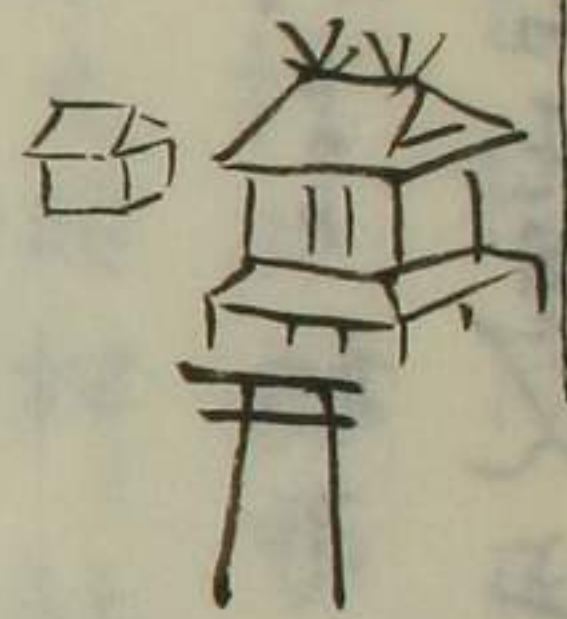
及次

同 市薬師の胸よりわきて出るにやされハ成ける山の井の水

浅からを見ん山の井の薬師 嘉任

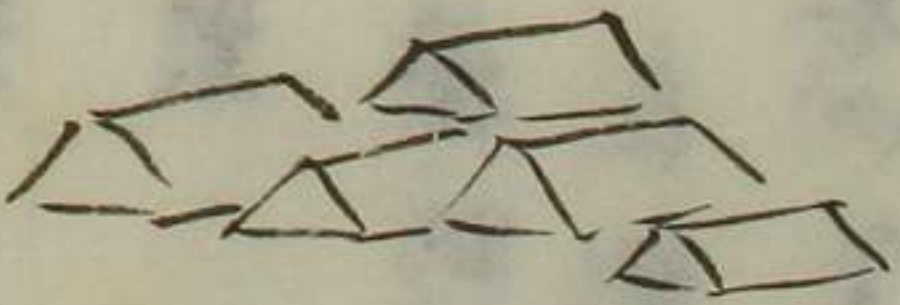
高尾峯

春日大明神社



大かた村

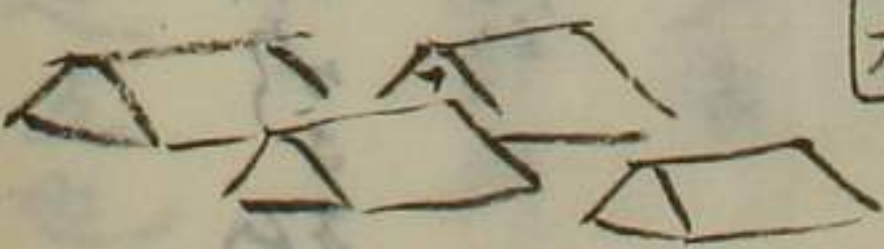
いつはの松



ひらの村

山の井村

山の井の堂



清寧天皇の廟



ひらのくまさん

○橋嶋ハ東弓削の内なり橋寺の旧跡あり

万葉分七

橋の嶋に一をれは川遠きさらさてぬひし我下衣

万葉十六

橋の寺の長屋ハ我かるぬし童女ハなりハ髪上つと

狂哥

友和

そちハ名りたち花寺の郭公ほそ人をかけよかけよひた

夏の願かたちハな寺の蟬の経 正儀

○八尾木稱名院せうみやういん道中記ニ河内国八尾木の金剛蓮華寺と

云寺をさして行ふけり爰なる人云やうは八尾といふハ鶯の

たちなり尋常の尾は十二牧らむとは所ハ尾を八重祿

をくまきたるより申けり  
稱名院  
契りをもて爰にそきかん  
鶯の八尾の椿つばき父子ちちこ此聲

と書置是より神妙むくの木の寺へ参ると書久人

狂哥 八尾木不動屋敷 及次

たじとり不動此屋敷ありならふ志はりによあ久里人

日 日 正之

木像を八尾木の木めてきさませて不動の堂の建立し

日 八尾木高松塚 及次

我見とり子此時より見初める高松塚八世経ぬらん

日 太子軍此時八尾木川而夜あけそれ占比川也 同

秋の夜はほやほのくと明川の流れハ太子の内手水かな

### 河内名所記卷四

柴しは離都りすの 丹北郡

連理松れんりの 同前

仲哀天皇御廟ちゅうあいてんおうの 志紀郡

誉田八幡えだはちまん 古市郡

碓井うすい 同前

道明寺どうめい 志紀郡

反正天皇御廟はんせいてんおうの 丹南郡

葛井寺かつら 同前

惣社そうじや 志紀郡

大田おほた 志紀郡

木本きもと 同前

大井おほい 同前

小山こやま 同前

雄略ゆうりやく 廟 丹北郡

阿保親王御所跡あほしんわうごしよ 同前

児か池ちこいけ 同前

大塚阿保親王御廟おほつかあほしんわう 同前

極山たぎやま 同前



允恭天皇内廟 同前

潮音寺 同前

成玄千軒 同前

蛇目清水 同前

舟橋 同前

當宗神社 同前

北条天神 同前

柏原 同前

娶譏堤 同前

弓削 同前

沼村 同前

若林 丹北郡

仏破 同前

城連寺 同前

枯木 同前

油上 同前

住道 同前

塚本 同前

布忍 同前

長曾根 八上郡

金田 同前

花田 同前

柴籬之都

人五十九代反正天皇の皇居都河内丹比是謂

柴籬之宮

丹北の郡吉原の庄廣場といふあたりむかの皇居のふるあと、申つたへ侍るいまは天神の社まきまを四方に景ありて小たかきところまでおりしき所なり

狂哥

意朝

柴垣の宮もわら屋もはてしなくはひつゝきたるへうたんの

柴垣のうやこは咲や車ゆり 浄久

むくけうへてゆふ柴垣の都代 西鶴



○連理の松丹北郡松原の庄間西天の神木也

狂哥

利光

老をたれりよく連理の松か枝人目も耻も老藤の花

日

松緑

葉をよきてふたりおせしこれその連理の松のつぎむけり

葉をかけん比翼連理の松の枝

意翔

珠り来なけき理れまろそ郭公

如貞

心かりあるなる連理の松の色

忌水

○人皇十四代仲哀天皇所廟沢田領在大陵

山也

○卷田八幡宮

人皇十六代應神天皇の所廟也陵ハ長野山と号ス  
人皇世代欽明天皇廿年ニ初テ八幡三所の社壇所  
建立則天皇勅ヲ曰ク八幡宮を宗廟の神と仰奉ると  
あり其年二月十五日ニ行幸在テ一七日中内参籠在シ  
より以来代々の帝王此例ヲまかせ行幸在シと也  
本社中ハ八幡右ハ神功皇后左ハ仲哀天皇なり  
外ニ若宮あり其外末社多シ今ハ社家四人あり  
祢豆等あり神子五人あり寺ハ護国寺真言宗也  
奥院ハ寶蓮花寺律僧也社僧十五坊あり所廟の上  
ニ栢大木有所廟所の前ニ唐門あり本堂ハ阿弥陀又觀音

堂舞臺樂屋あり真院。本堂有そり橋あり  
縁起ハ普廣院義教所筆以上五卷有繪ハ土佐將監  
たり卯月八日若宮の内神事車樂二乗渡る此日能と見  
の舞と隔年ハこれあり八月十五日ハ内輿出内伶人の  
舞あり正月十四日月影をうけて正け物ハ水を入板目  
をり一年中の水斗何合と智祢直の役也櫻の馬場有  
内神所并ハ神功皇后かみら矢を納め所矢坂とて  
あり鐘ハ頼朝所寄進則建久二年と銘あり内  
輿并ハ内長刀同所寄進内廟所境内廻り五所  
四方社領代々將軍所朱印あり

狂哥

八幡といふてくやめと散花をみむハ是派ないこ人田成けり

日

栢の木がはく人田水ハ内山の景ハ八幡より此そと見る

月

可房

蒼田よはいくさならねとくつはをならへそ友よあをい

月の水や斗るます見の鏡餅

淨宣

花ちらをもあ方風かうい蒼田

梅扇

花の波もねむる小蝶は磯良代

雲紙

なほみ人田八幡咲たり花盛

一之

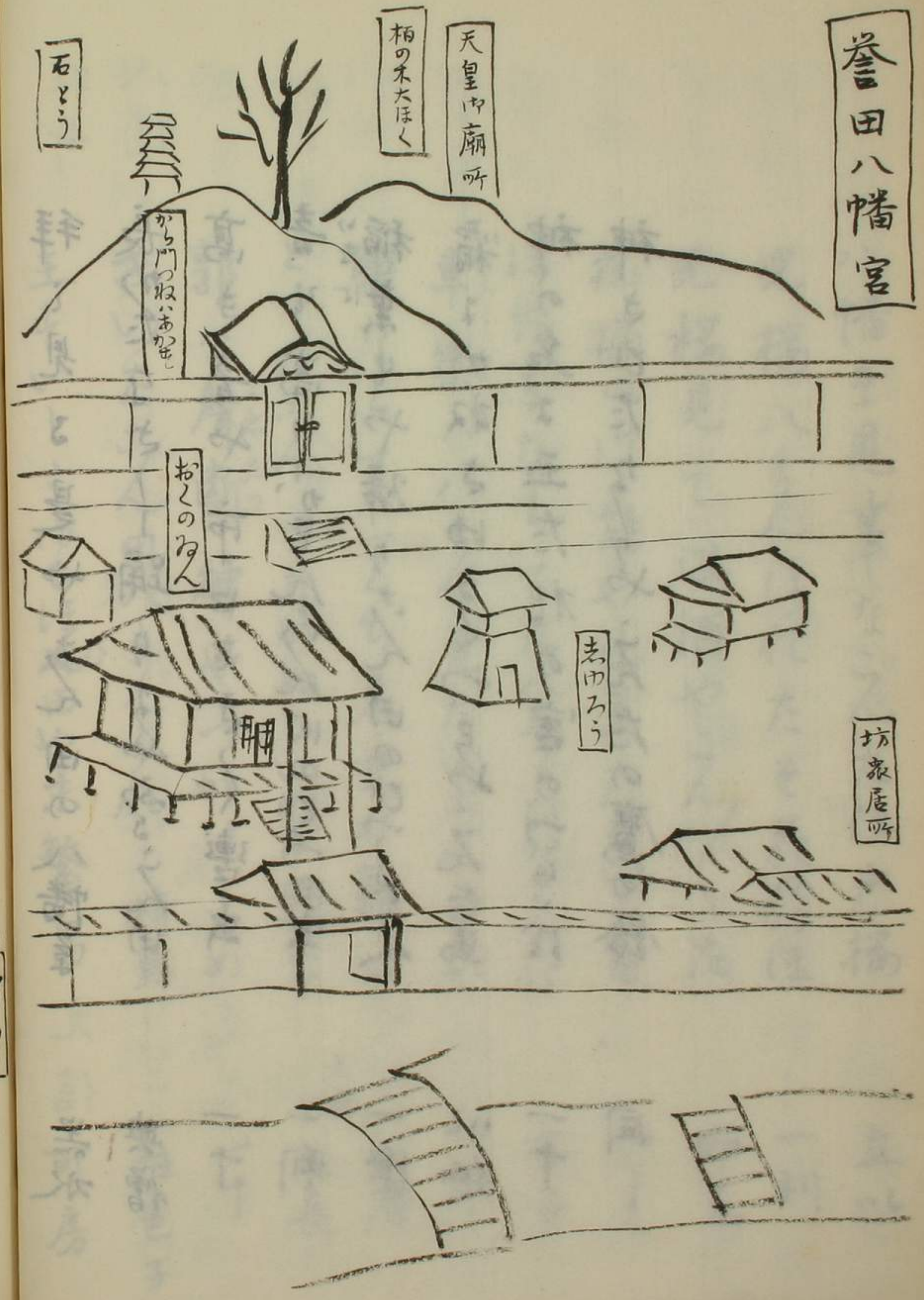
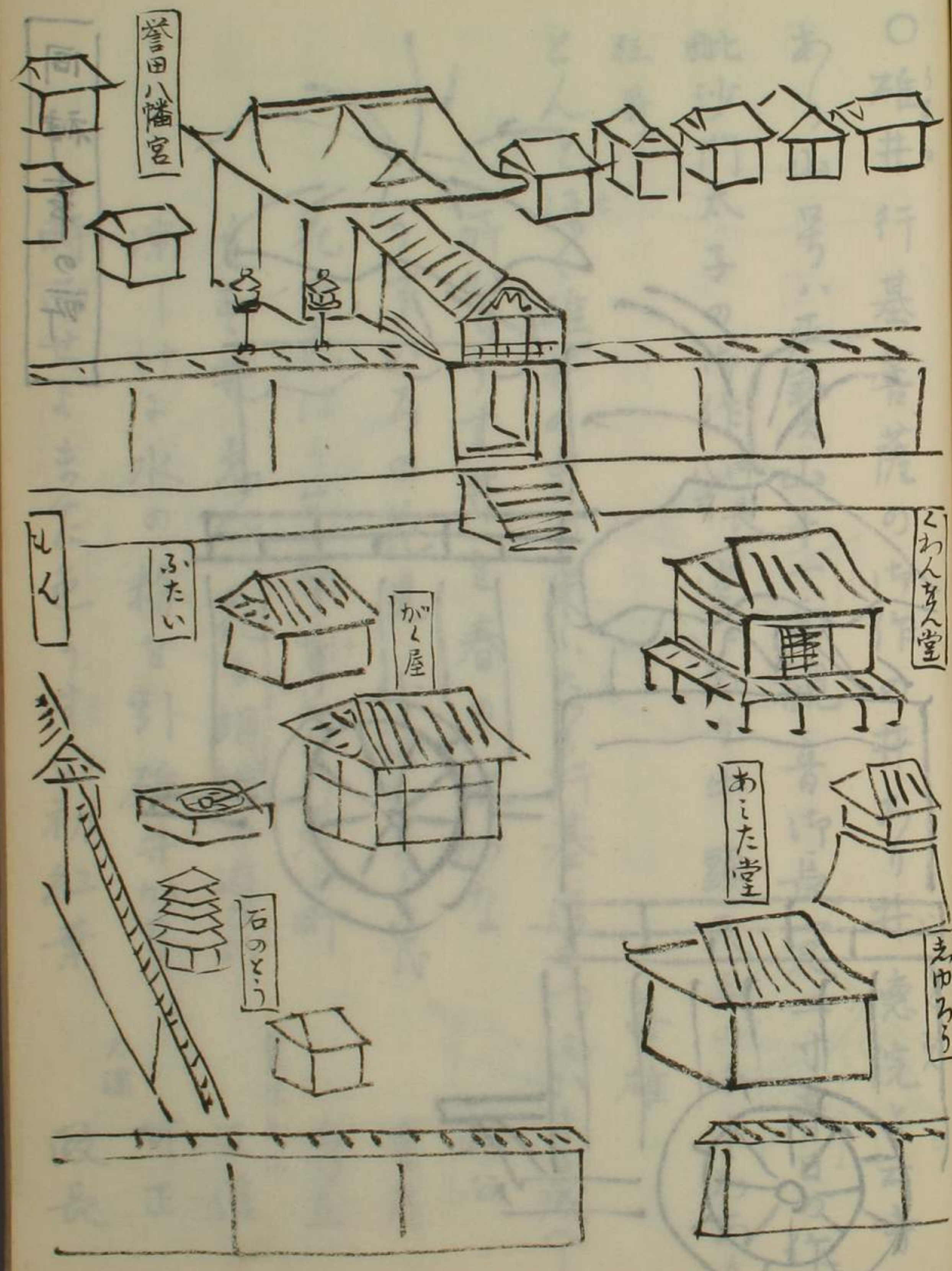
花の枝ややつこれ急いと折え

若哲

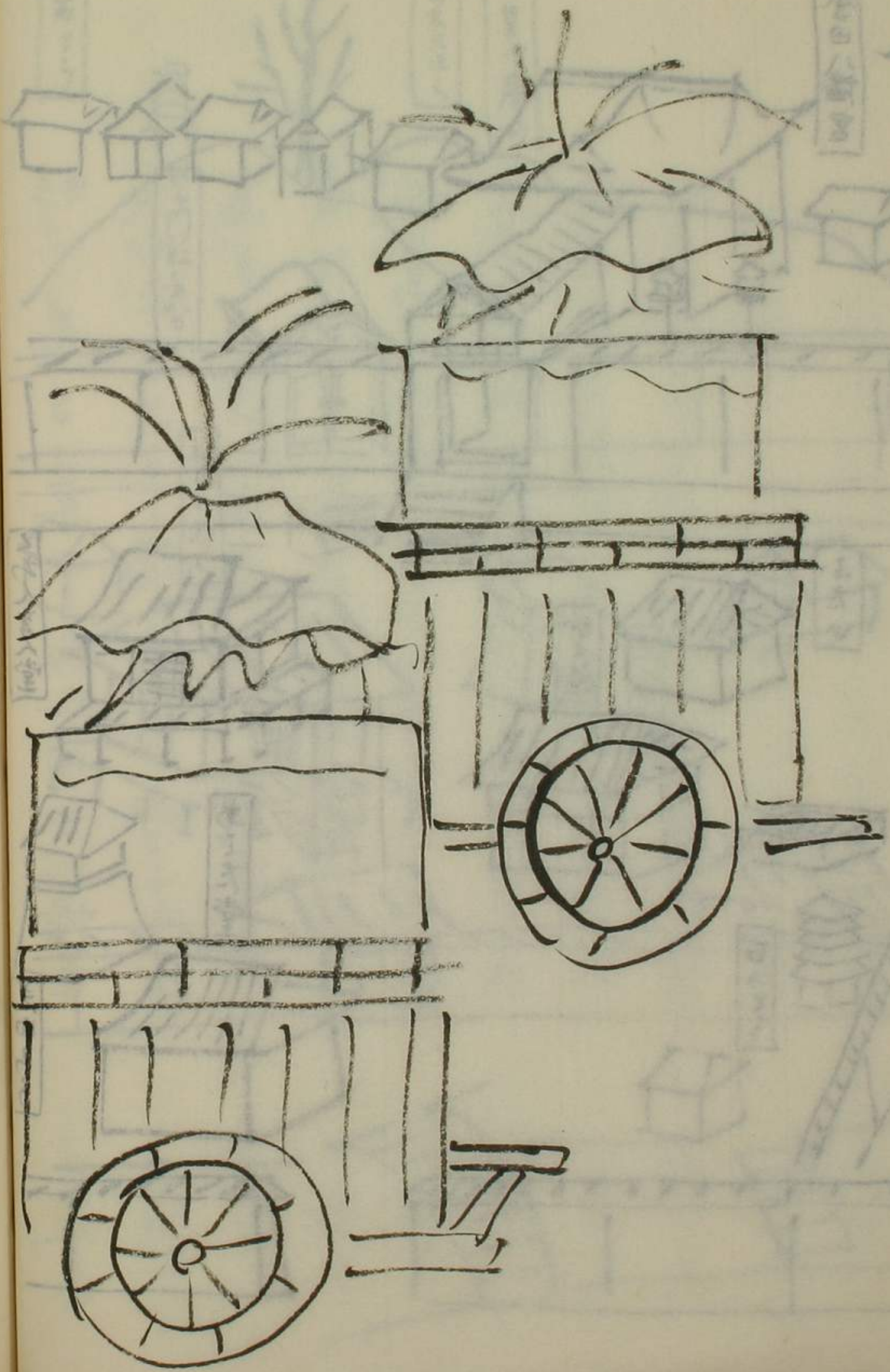
八幡を見事なうた江戸橋  
 立以  
 児楊八まんほれたそ花のかほ  
 一利  
 児楊見て汲酒やえんくた  
 如元  
 花摘の所能や出来たないん田  
 一卜  
 ほたるならてたん志りひかるた  
 言子  
 車樂ハ八まん見たいあん田式  
 一守  
 轡ならて一うち名乗れ郭公  
 行廣  
 としたあん田なかぬはいかま郭公  
 天満 政長  
 一十  
 郭公聲断神やつかハ一め  
 一十  
 きいたあん田八まんうれ一時鳥  
 粧色子  
 王をいとうゆるほむ田や末繁昌  
 可房

拜に見る是やあん田の八幡草  
 黒水  
 長かたなさ一踊りもやあるん田  
 典僧  
 一十  
 高き喜や市口をきく響虫  
 一利  
 喜り高ーかまんあん田のくつ日虫  
 一樂  
 稲葉もや帰りあん田のひつらん  
 以仙  
 霜よかぬさゆるくつ日やえんた馬  
 一十  
 神の名は玉たれの宮のつら、れ  
 同  
 神さびたなりやえんたの鷹の鈴

登田八新言



同神事の所



○碓井<sup>うまゐ</sup>行基菩薩の作の井あり井<sup>いとく</sup>徳院と云寺

あり山号ハ正寶山十一面觀音<sup>ゆ長</sup>一尺二寸春日の作

毗沙門太子の作<sup>ゆ長</sup>堂あり牛頭天王のやあり

狂哥

とんとほく碓井の里の米はたく行基ほきつゝかき成へし

所からうす井を春の氷かな 政公

うすいろの花見小袖をさる道 重房

花の色はうす井<sup>け</sup>もなり若小所 秀立

うす井<sup>け</sup>ゑんい花は胡蝶の遊 正信

涼しけみ水の粉を引碓井かな 可正

時雨せよまた色うすい初紅葉 政長

天満

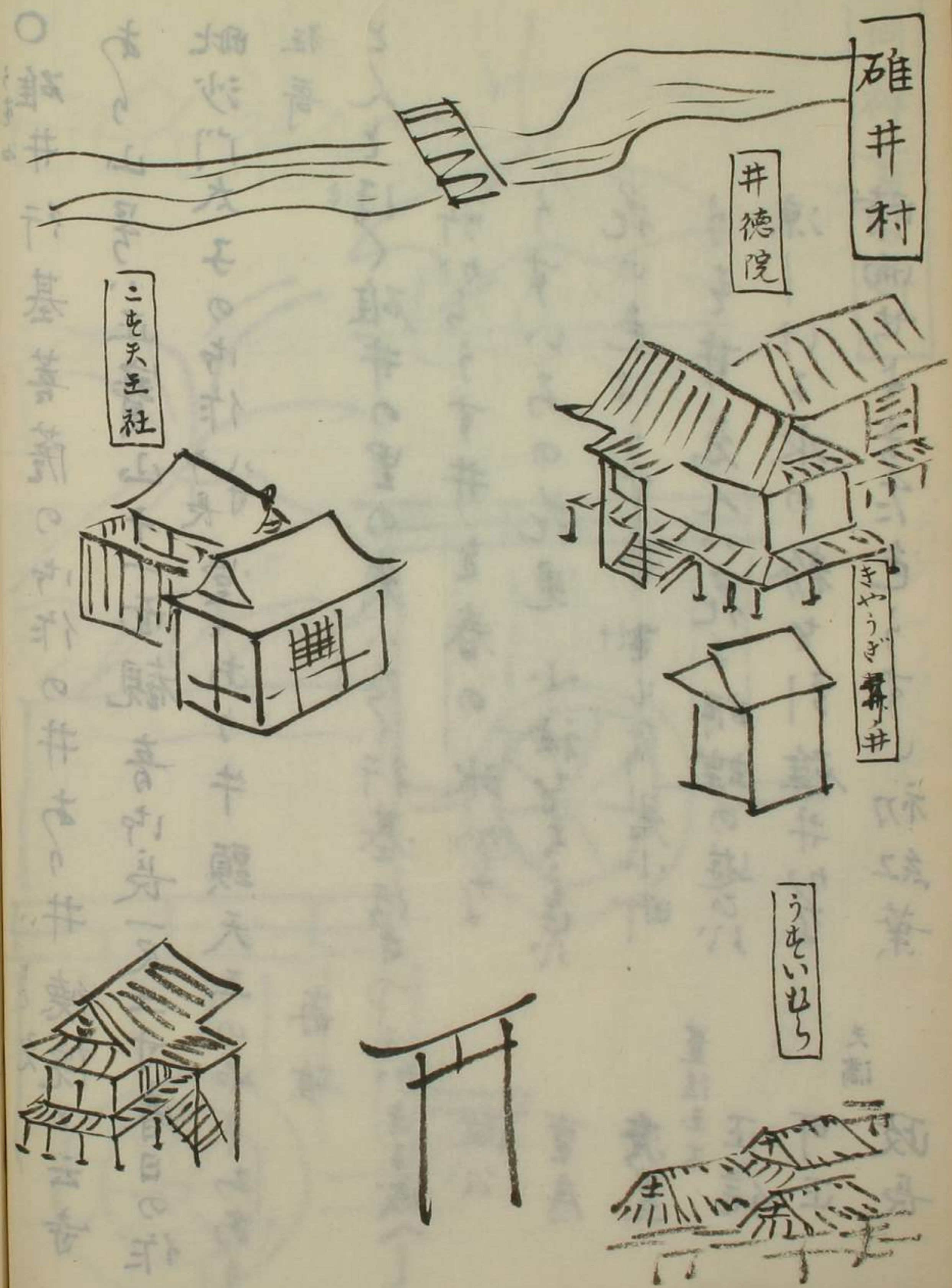
豊後玉木

碓井村

井徳院

きやうぎ井

うをいむら



天香云の道明寺

推古天皇所願寺聖徳太子開基は所を土師の里と

いひ侍る土師連八嶋承りて佛閣薨をならへ建立有し

と也五部の大乗経うつめあひし上は木櫛樹生出侍りは実を

たつとして人々数珠まつなき侍るは本の下ハ夏の間に

のつよき日中に雨ふり申也土師ハ姓比人我朝日初ていまやう

を急いしおける人也其こ急たへましてまよにおもしらく侍りける

るあるとき八嶋か屋形のいらかのうへうて變化の物夜なく

哥うたふひるなくせし此狎るなかぬなきくさきを梢こまへもるを

八嶋いふかしく思ひかの假名位所をいまやうに急いして尋たぬ

とおもひて夜ふけ人志つまりて時のてしを取てうたひけり



己か屋と此いらかたたる聲ハたそたかまなぬれよもの草花  
其聲を魚んげの物聞かんたえいかもおひりき聲を返哥  
あまの原南まをめる夏なつ火星ぼし豊とよさとにとへよものくさるとり

是れも三返斗うたひ住吉の方へ飛さりぬ太子の内名を豊里の  
王子と申也何事か太子と云心也夏火ぼしとハ覺惑かく星南  
方のそらまをむ国土を守る星也と太子のたまひけると也  
星とうたよこかかけるめいよの人なりとそ

さて此寺は菅かん丞相さうしやうの伯母はくぼ中ちゆう覺かく壽じゆうと申おはしませ侍しやくとかや  
菅丞相はくしへさすくえの時とき中ちゆういとまこひま立たよらせぬひ  
しとなり其夜よ鶏けいかかましくやおほしけん

なけハこそ別れをいそけ鳥の音の聞えぬ里の曉もかな

詠いあひけりそそ水よりは里に鶏をかたと申傳ふる  
六十二代村上天皇中宇  
天曆元年てんりきげん都北野みやぎきたの中ちゆう社しゃを立始たてはじめ九月九日くわんげう天神てんじんを写うつ天てん彌み大自在だいざいざい

天神とあかめあふ同年ごねん當所あたところ道明寺だうめいじにも三丁さんていの森の内のち  
社しゃを立一丁いちてい左右さうぶ梅うめをうへ天満てんまん大自在だいざいざい天神てんじんとあかめあふと也  
本堂ほんだう八十一面はちじゅういちめん觀音くわんおん中長三尺一刀いちたう三礼さんらい天神てんじんの中ちゆう作しやく也薬師堂あり  
一いち中ちゆう神しん躰たい中ちゆう鏡きやう後宇多院一いち後宇多院ごうすたゐん勅ちやく符ふ也天神あり  
一いち梅うめ梅うめの繪ゑ天神てんじんの中ちゆう自じ筆ひつ一いち中ちゆう小せう刀たう觀音くわんおん像ざう作しやくあふ小刀也  
一いち中ちゆう笏しやく両面りやうめん也天神常中持在也一いち石いし帯たう一筋いちすぢ紋もんあり  
一いち中ちゆう鏡きやう常じやう中ちゆう持ぢ在ざいと也一中ちゆう硯えん圓えんノ形がた也常中持在也  
一いち中ちゆう櫛し箱はこ内うち中ちゆうくあり一小せう紫むらさき本ほん結むす二筋にすぢあり  
一いち中ちゆう香かう箱はこ一合いちがう今いま香かう有あり一心しん經きやう阿あ弥み陀だ經きやう有あり  
一いち善ぜん巧かう方便はんべん經きやう一いち觀くわん普ぷ賢けん經きやう  
一いち法ほふ花か經きやう一いち部ぶ傳でん教きやう大だい師し筆ひつ一いち無む量りやう義ぎ經きやう

一阿字観冲鏡あり

一松虫鈴あり

一佛舍利

一瑠璃の壺有

一巾鈕一尺七八寸  
是ハ八幡のあたへふと也

坊数八坊有ほりひ名物  
ひくにのりさ也

右巾手道具ハ菅原相分伯母巾ハ巾形見送りのみと申傳へ侍る

奥、天神、宮天穂日命と云は所ハ、神秘在くと云く

代々將軍 巾朱印あり 権現様巾制札あり

狂哥

一利

春過て夏つきけぬし志ろくと衣ぬくてふ尼のほりひ

日

正盛

道明寺あつきをすくふほり飯こそ衆生こちひくほりつ成けれ

日

唯正

天目子立さ、波とやき志ほといつれか白きほりひの色

梅ハほり庵路をはる、道明寺

信之

廻文

浴ハ庵か梅白くめむ神社

一利

道明寺の于飯か庭の小米花

勝信

飼たしや鳥なり時里ハ郭公

一十

引ひを道明寺ハ名付たり

如貞

大臼ハ引手尼たのほり飯

如元

引飯をいる、やあき津かゝ代衣

意朝

ほりひの天神ほりつか道明寺

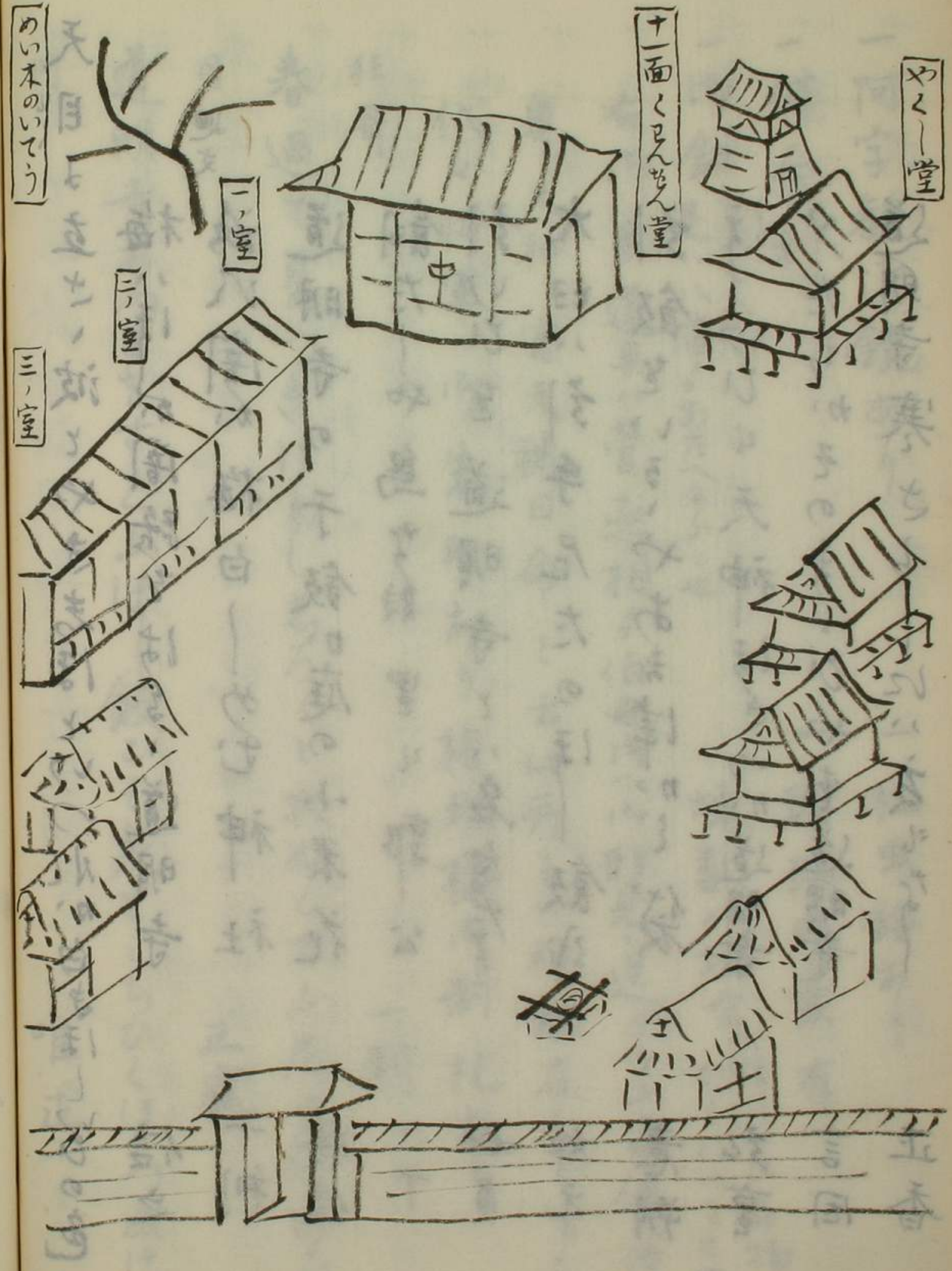
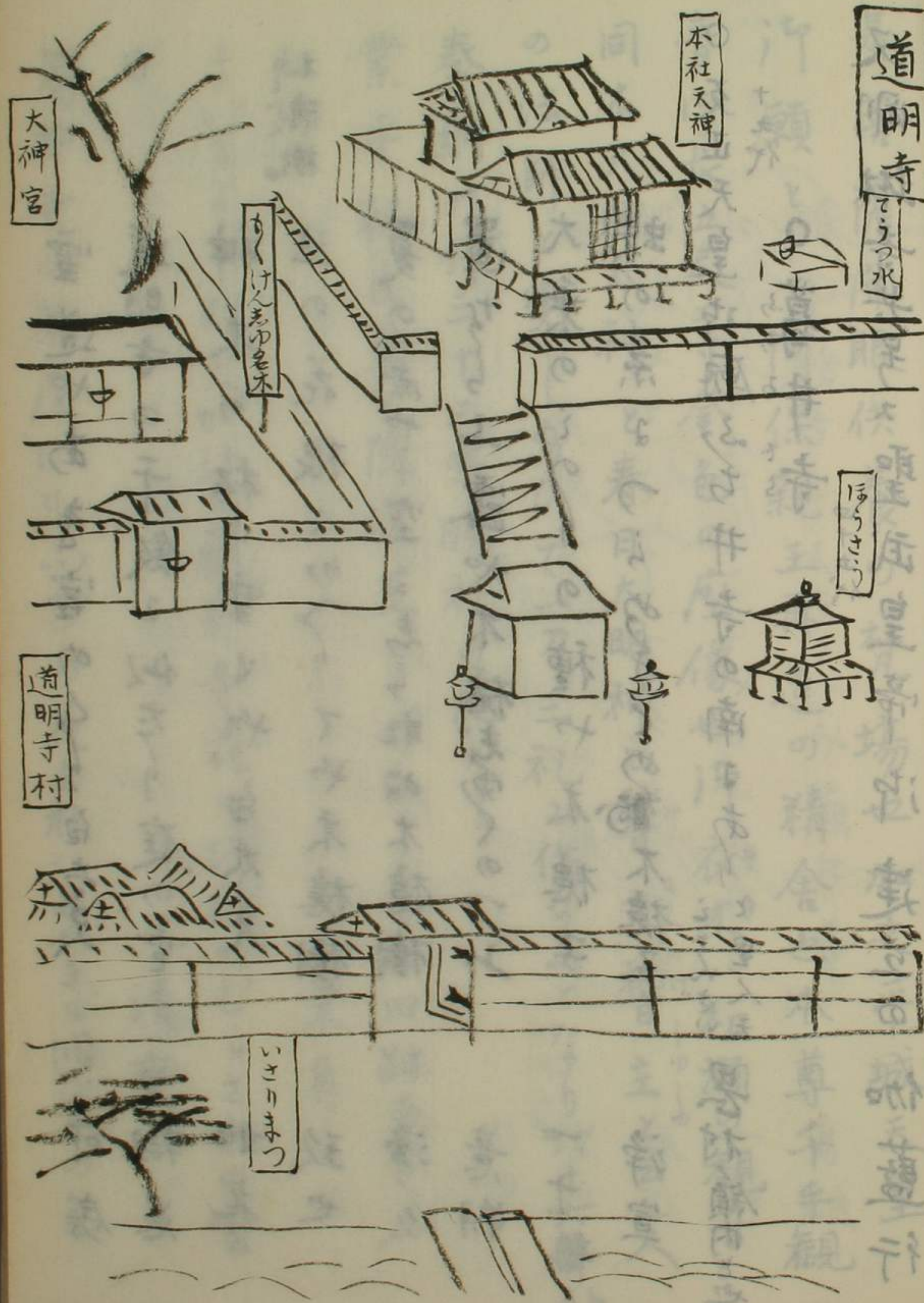
弘重

夕たちかそのまゝひやも道明寺

言因

道明寺寒さるゝにハ友もなり

正香



雪道やあき宮めくり白ちま

可房

道明寺の千飯ちいひ似たり庭の雪

辯愚

神木の松の雪もや白太夫

如元

法の花根はなねかへりてや木槌樹

致也

夏の雨や空あまあられぬ木槌樹

浄久

置おきならふ露つゆや木槌きねあくのつふ

意朔

大乘だいじやうのこのりの種たねや木槌子

一十

蛛くもの糸いとまつらぬきとめめ木槌子

浄宣

○反正天皇あまのなりの廟みやふち井寺いせの南みなみありと里人云

畏村おそむら領内りやうない也

○葛井寺かゐい

又剛琳寺ごうりん共号ともなうス聖武皇帝せいぶてい沖おき建立たての伽藍行

基菩薩きぼさつ開眼かいげん供養くやうの梵場ぼんじやう也加之平城へいせい天皇てんかう

沖願おきげんとして阿保親王あほのちか再造さいぞうの精舎しやうしや也本尊ほんそん千手觀

音ね中長ちやうぢやう五尺二寸金色きんしきの座像ざざう也沖衣おきぎ木きハ初瀬はつせの觀音くわんおんと

同木どうき天照太神あまてらすたいじんと春日大明神かすかひだいめいじんと嵯文もん誓ちか主しゅと云二人

の法師ほふしと變かへり一ひとあひて一ひと刀やいば三さん礼らいと作つくあふとなり六十六むそく劫じやく

奉納ほうなつ此所こゝ三十三さんじゅうさん所順礼じゆんらいの地ちなり

業平朝臣げいへいあそ奥おく院造いんぞう立た一ひとあひと云旧跡きゆせきあり

狂哥きやうか まいりより短尺たんせきかける藤井寺ふじい花はなも比紙ひしもむらさきの雲

日ひ 清重きよむね

葛井寺かゐいの茶屋ちやにもふぢの花はなあれハあづきもは京きやうの色いろ

狂哥

久任

大慈悲の矢はなる観音の力にふける藤井寺かな

かけてたのむ誓ちかひや松子藤井寺 政也

ならせしと花よこはんか藤井寺 友好

藤井寺花の波もや慈悲の波 梵達

短尺は花の札所やふち井寺 正賢

観音の慈悲をたるしや藤井寺 忠之

順礼やなごよりて見るふち井寺 勝信

水ひしやくのそこらや白ふ藤井寺 一雅

観音講むまふ志いつや藤井寺 良綱

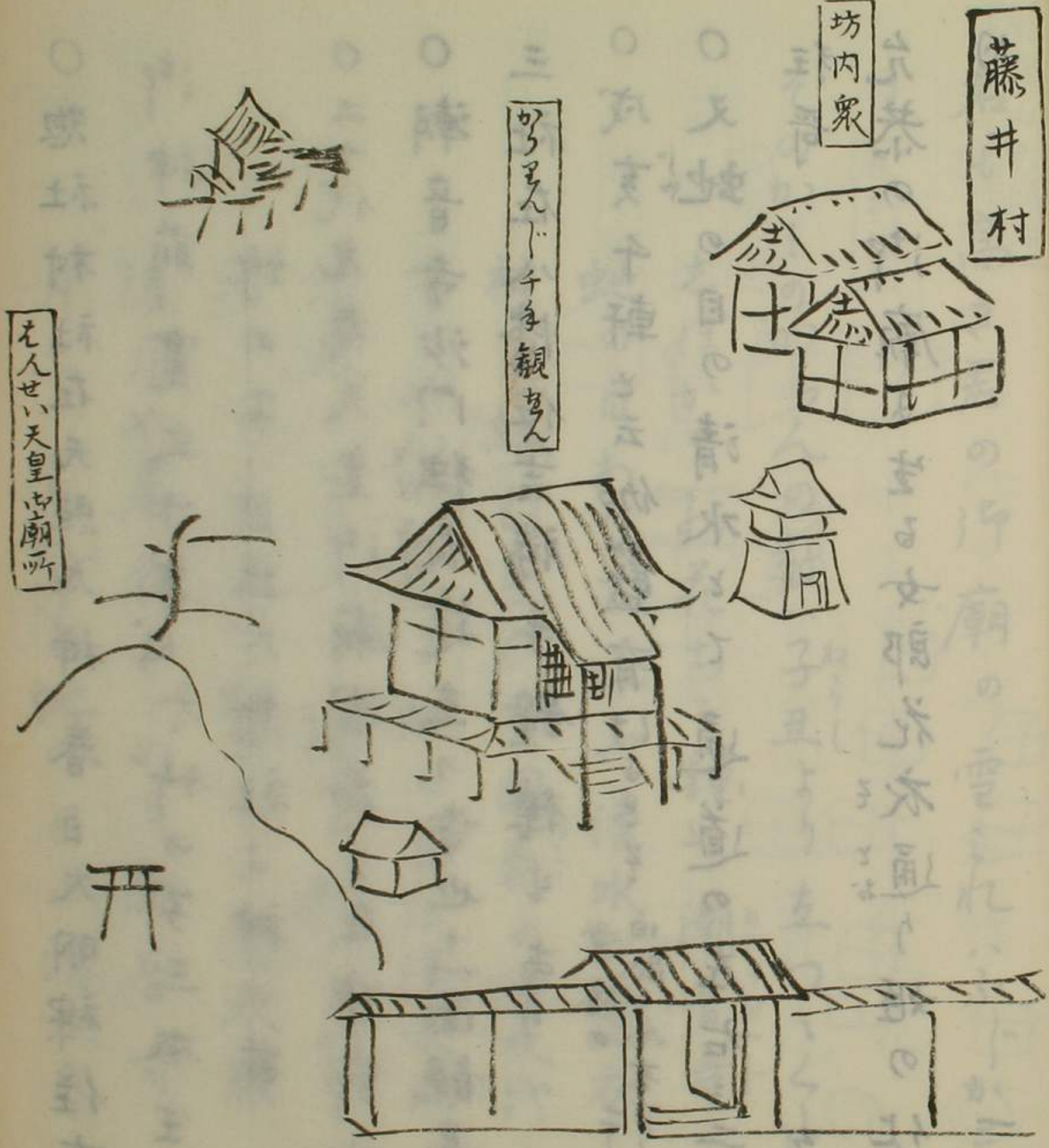
藤井村

坊内衆

かろまんト千手観音

老人せい天皇の廟所

藤井村



○惣社村社在天照太神春日大明神住吉大明神此  
河神前寛文十年戌亥竹の子三本生出たり  
利常

○二十代允恭天皇河廟國符こくご在市野山と云也

○潮音寺沙門独長とくちやう建立の寺也十一面觀音ちやうちやう鳥の作

三社在八幡住吉勝手鐘樓かねむらあり

○戌亥千軒と云伽藍有けるとそ堂塔の旧跡今有行基井の井在

○又蛇へびの目の清水とて通道の左右ニ二つあり

狂哥

允恭の河廟そとが生る女郎花衣そとが通り姫の化身なまこしなりし

日

一利

名も高き君の河廟の雲くもこれいふか三国一の山なり

月

意朝

そのかゝのかから人の数かずは子丑しうしより立つたつくくららしいぬい千けん

若わほかまはは花はなちる鐘かねや潮音寺ちやうおんじ 友次

蛇へびの目めあくて洗せんふ清水しみずや夏衣なつぎ 一利

神かみは縁ゆかりむむををひひ一國符いこくごの清水しみず 唯正

すすいいやかかややひひかるかる蛇へびの目めの清水しみず玉たま 猷友

清水しみず又またももううつつりりし月つきの蛇へびの目めかなかな 良長

冷ひやししくく見みるるや蛇へびの目めの清水しみず陰かげ 利常

浪なみ凡たゞや尾お花はなささいいめめく潮音寺ちやうおんじ 一利

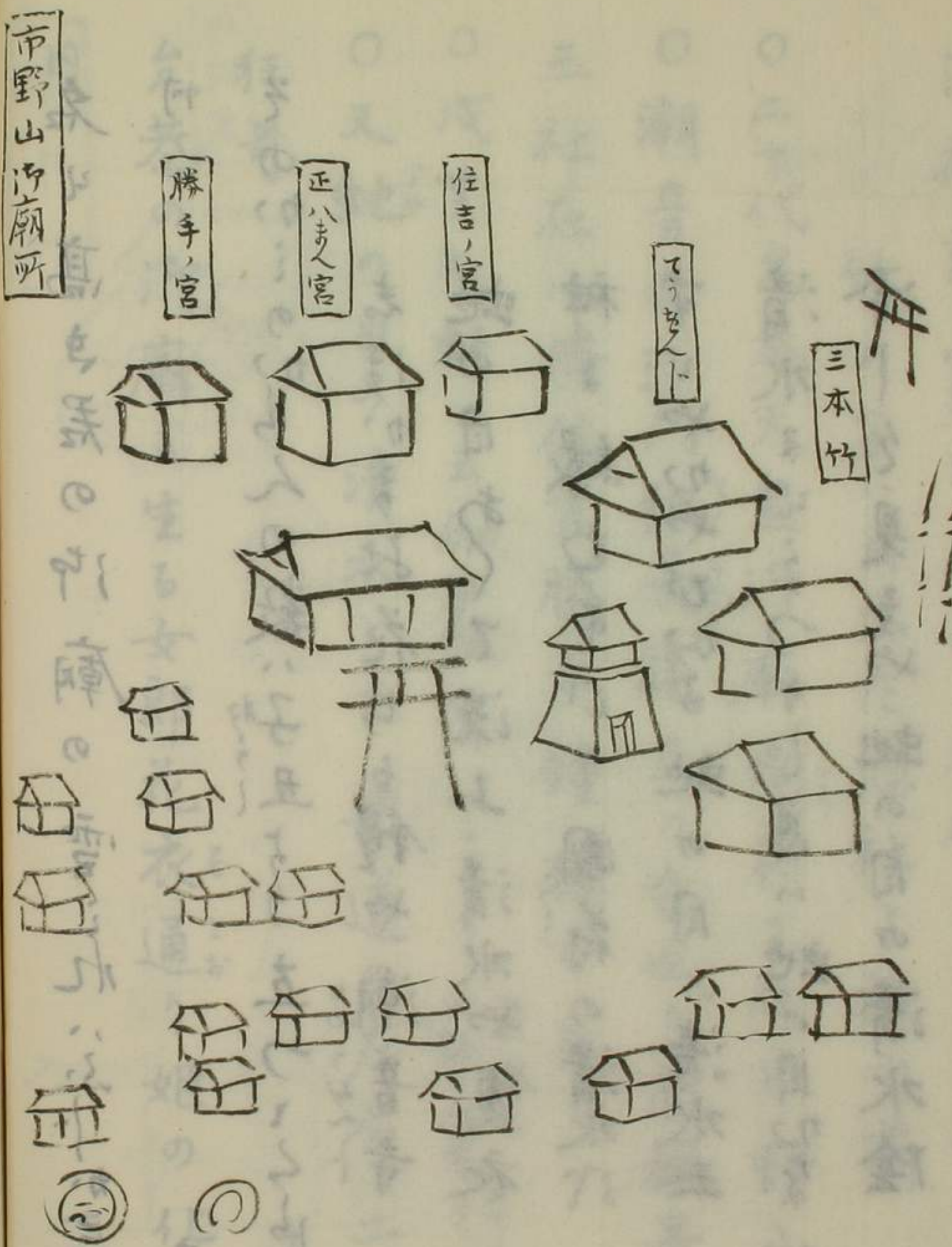
月つき二ふたつつききんんりり蛇へびの目めの清水しみず 竹葉

國府村

惣社春日明神

成美子軒

むかしの石(跡)



○舟橋村水仙花の早咲の名所

舟橋やせよちひきたる水仙花

舟橋や一かゝりあるすいせん花 保友

○當宗まさむねの神社志紀の郡神也昔奉幣使立四月十四日祭在也 正元

夕たちやふゆひまさ宗の神宝 雲紙

○北条天神志紀の天神共天照太神春日西服 重良

北条の時正一きや梅の花 重良

神の梅北条九代のつき木が 西鶴

梅の繪ハ四季天神の詠かな 浄久

さそく詠も北条の森の志けり 正勝

北条天神

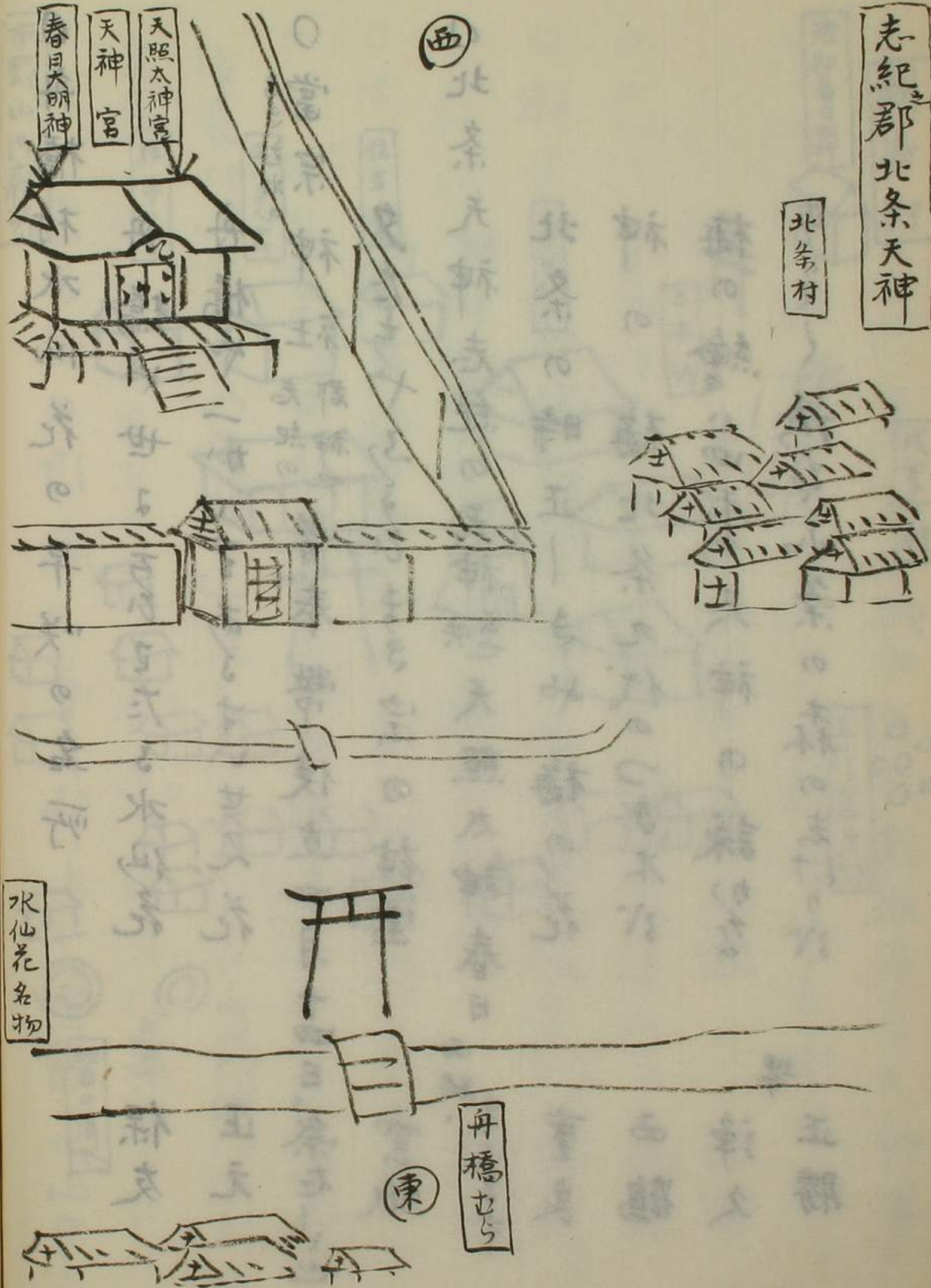
舟橋

當宗

北条

志紀郡北条天神

北条村



○相原聖観音

内長二尺

沓衣木ハ葛井寺の観音と同木

阿弥陀

内長一尺三寸

後有文祿首主の沓作也薬師

内長一尺三寸

阿弥陀

内長一尺三寸

惠心の沓作也鎮守牛頭天王志也うぎの森むかしの

大きなる木林みて有けるを元和六申、五月、相原堤三

百間切又寛永十酉八月同所きれ侍り其時此木林

破失して少残り今あり清水あり

貞室京の全剛山へ参詣あり折ふ相原村浄久か亭に

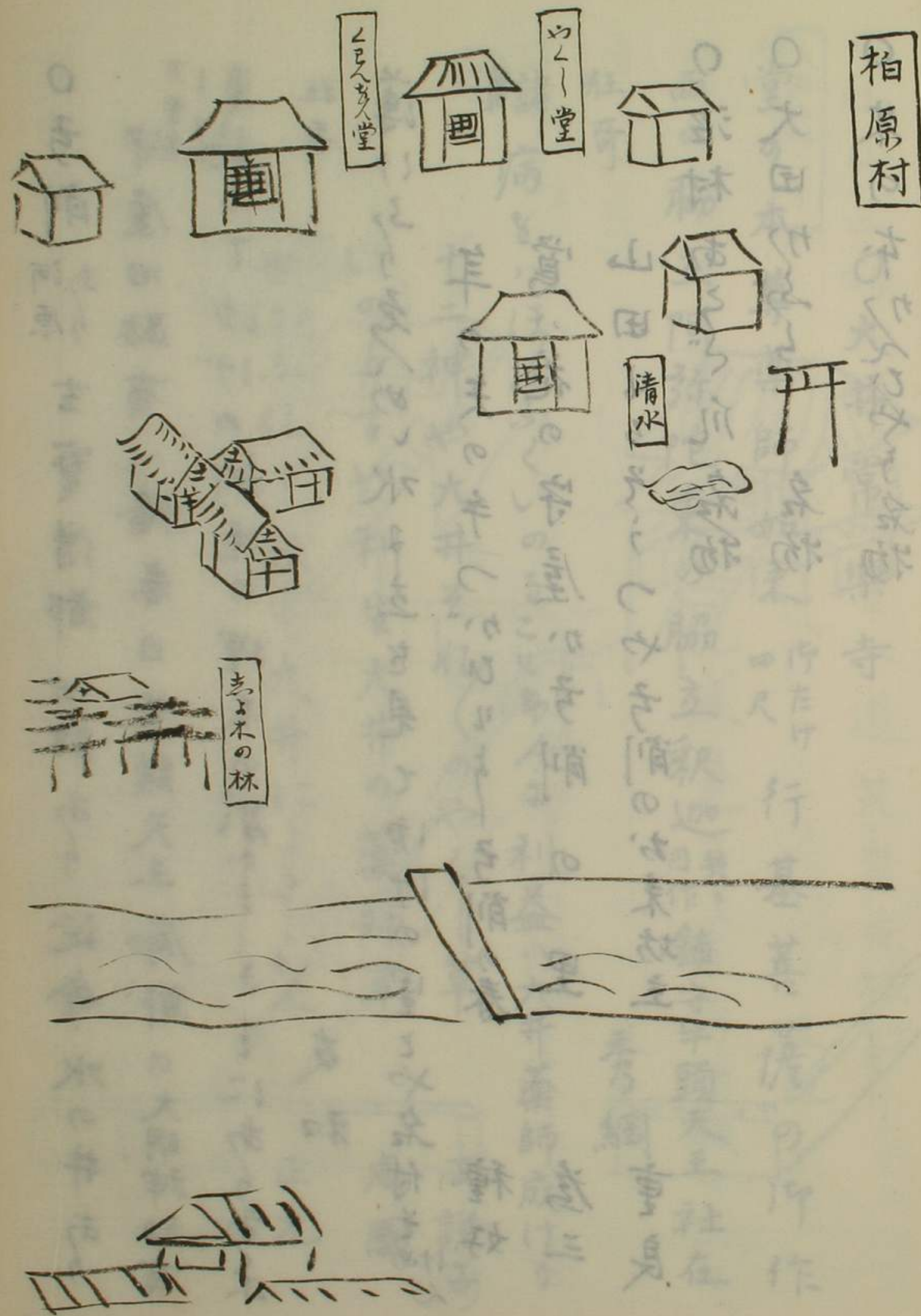
尋来りあひて夜ふくるまで物語し侍る發白所望せ

貞室いはく方口よりはいかいせめられは度ハはいかいを

のかきもありきさふらふ其上は道志ふかしく共折又あたか

いよき句計ハ出を免しぬと有せいと云侍りけれ其時





柏原村

は地いつれの郡そとつれける志紀の郡とこたへけれ

夏川の溝は郡の志きるが 貞室

清水六月ハことハひやかちなりけるまに

真夏も冬をか原の清水が 意朝

冬堤をとをり束あひて

輝やかーはら手れのたひつかれ 玖也

○志紀の郡の堤をハ世話よめそをり堤といひなら侍

狂哥

よめそをり堤の原を見わたせつれ立出るふきの志らとの

そーま〜嫁か萩はむつゝかな 恒休

よめそ〜堤はあまや姥柳 常政

○弓削

河原あり

玄寶僧都 旧跡あり 延命水の井あり

守屋

旧跡有 八幡春日牛頭天王府都の大明神社有

万葉集

真絶もてゆげの河原の埋木の石かまきまにありあふ

狂哥

友和

薄けふり多めい水又立を見てゆげの里とや名付そめ

年の矢の手つかひりより弓削の春

種好

鶯ハ花の守屋か弓削の里

為三

山田もるそうつや弓削のお末坊主

重良

○沼村あらぐ瓜名物

○大田かぶら名物

○木のなかんひやう名物

○大井常樂寺

堂の本尊薬師如來

四尺

行基菩薩の所作

西の脇立阿弥陀東の脇立釈迦共作鎮守牛頭天王社在

狂哥

秀綱

諸病をいほんふくいのるこり人々利益ハ大井薬師成けり

十二神や大井そけくのやく草

西謙子

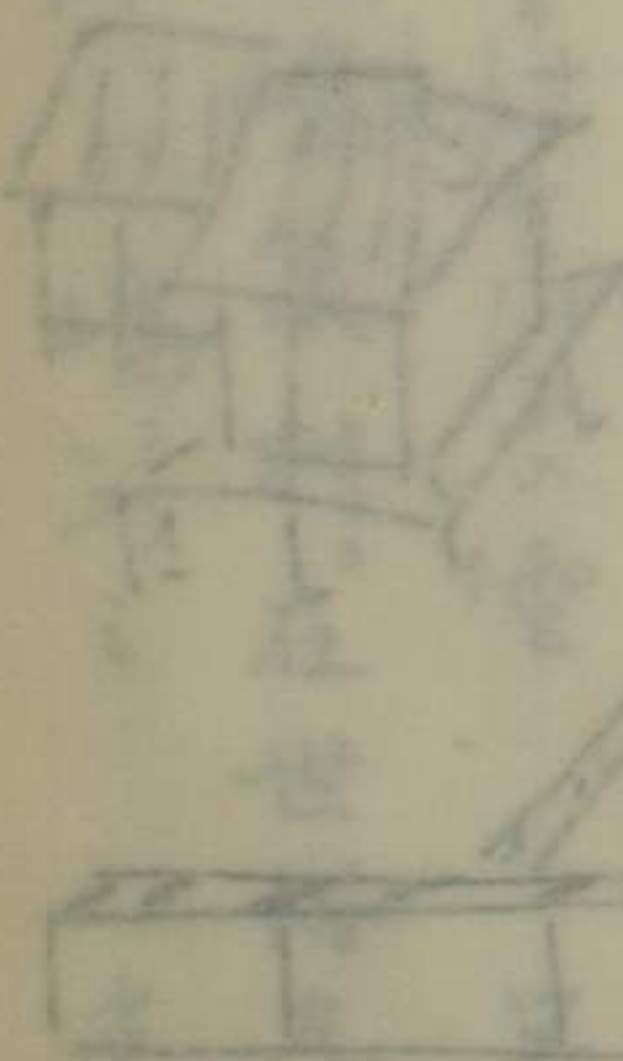
いのりてや利生大井の薬師草

周國

せよふれし味も大井によきかん

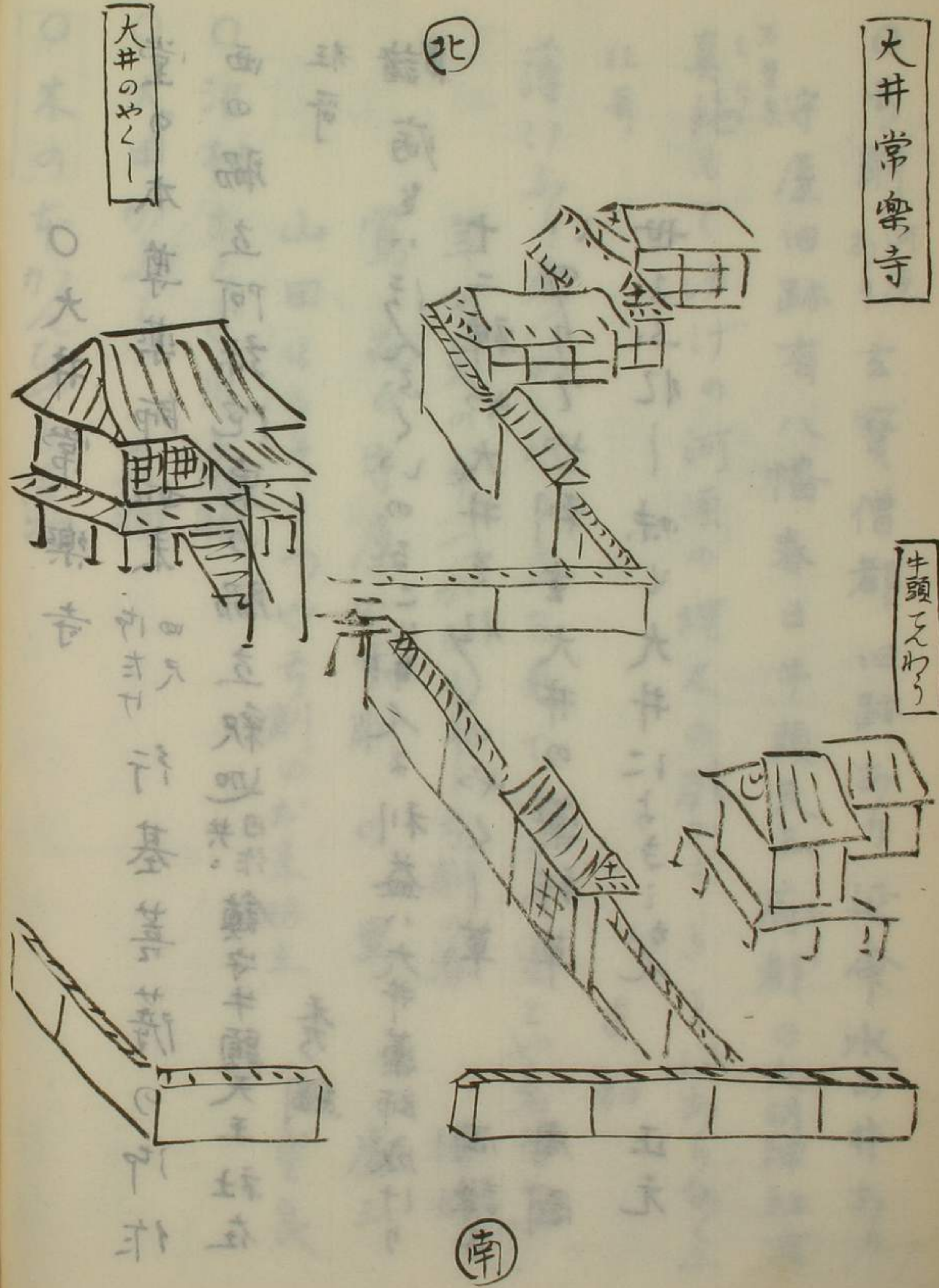
正元

大井常樂寺



大井常樂寺

牛頭天



○小山三好山城守康重入道笑岩古城跡

狂哥

久任

雲に雪よまかふ小山の花盛是そよの古城のあと

日

正之

ちりつとて小山となりし所から雪ふる城やそよの景

葦葉や小山を飴花のちる 政公

月夜よりそよの城の山 重貞

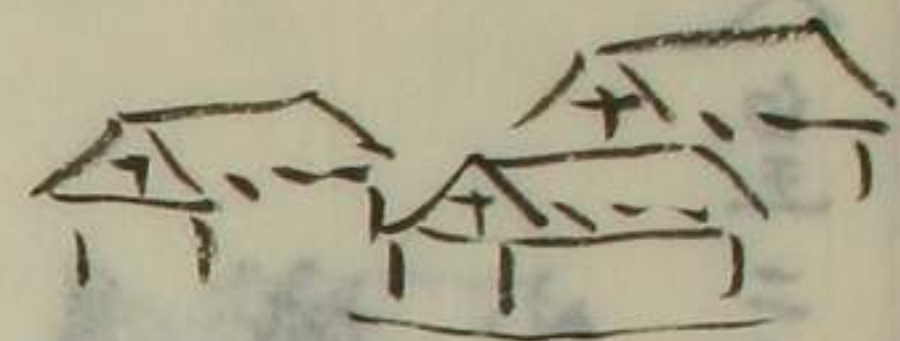
城山は追手からめてもみちかな 同

小山なりと富士のまけなけふの雪 黒水

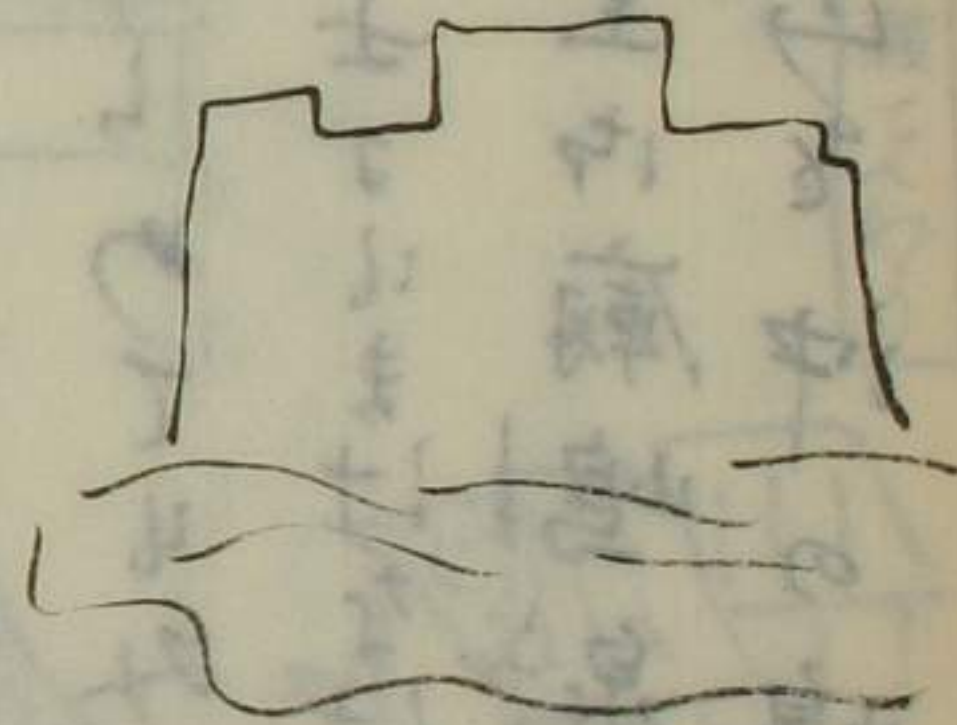
○人皇三十二代雄略天皇御廟嶋泉村在世俗丸山共云

○人皇三十二代雄略天皇御廟嶋泉村在世俗丸山共云 光榮

小山三好古城



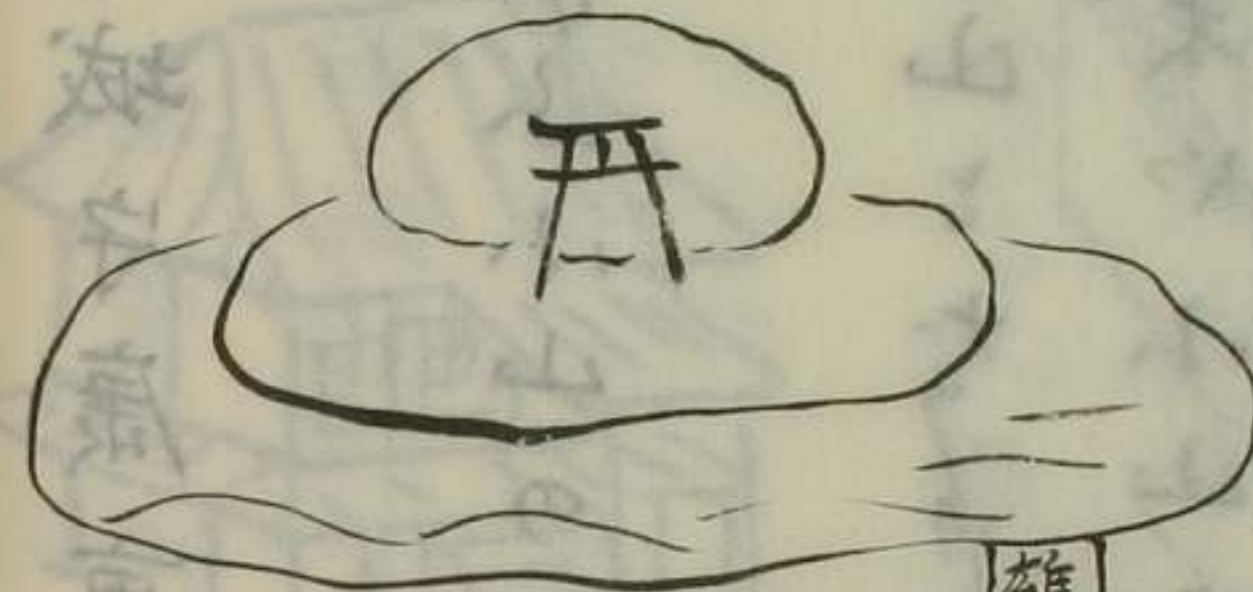
三好之古城跡



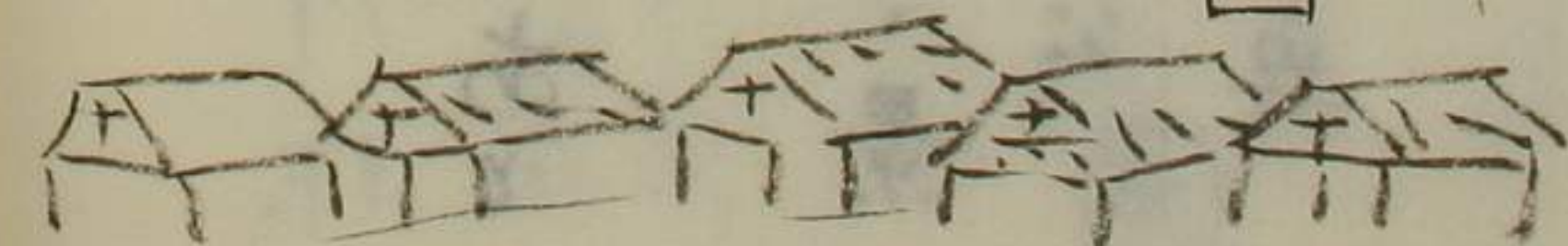
嶋いつい村



雄略天皇の廟



小山の町



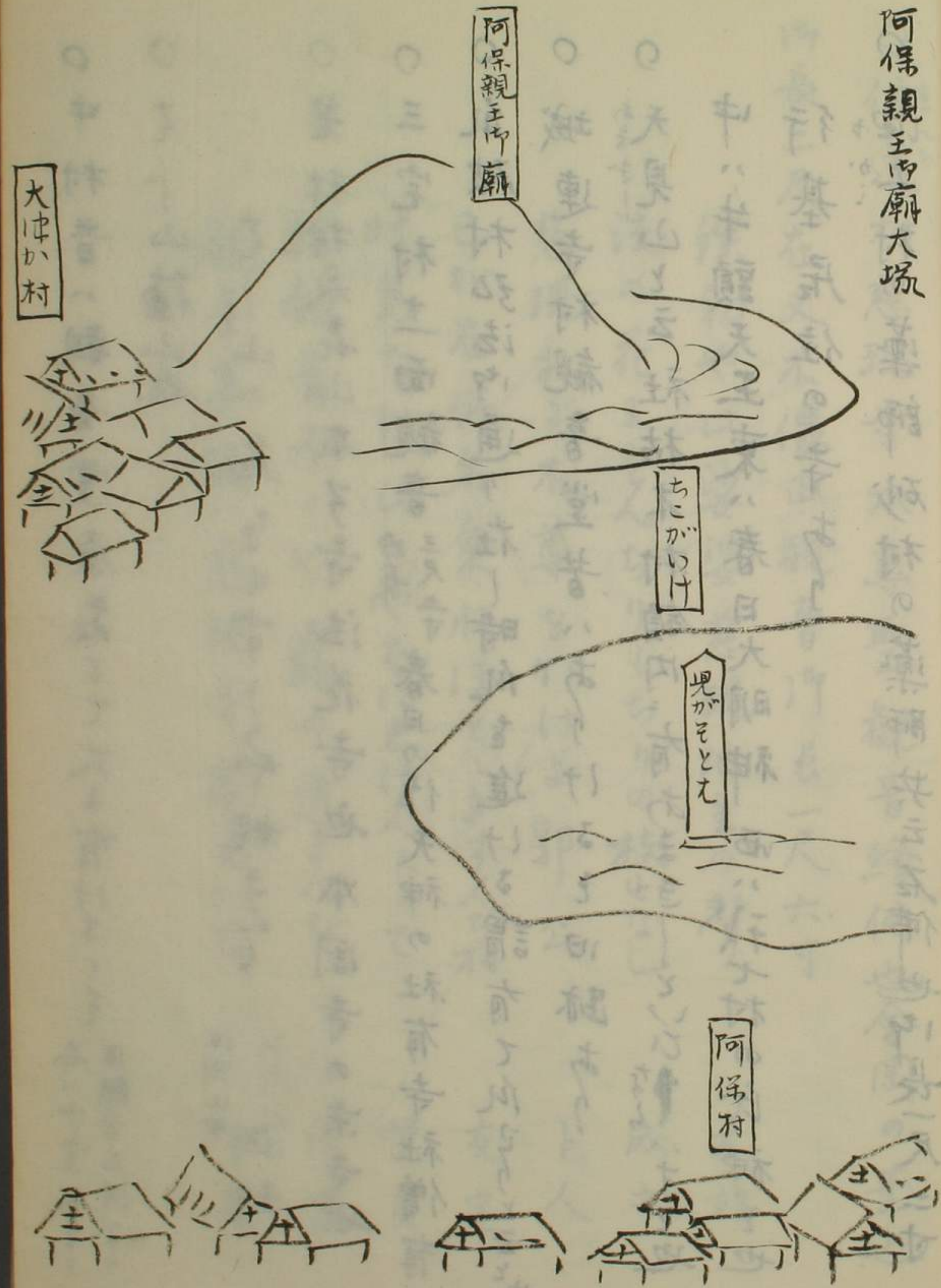
○人王五十一代平城天皇の所子阿保親王業平の親也  
比所は住あひしと也故の所の名を阿保村と申ならハ其宮作  
りトあひし所今有西阿保東阿保とて二村有東阿保旧跡有

春の色は東阿保の景氣外 重成

○親王池といふ大なる池有いつの比かあ人々見  
比池よりせ侍るおやかなしく思ひちこのとあらひは長五間  
ほとのもとは木を池の中は立しより見か池と申ならハ  
まとや也比そとハ朽たをるれハ又里人とのことくのもとハ木をたて今有  
一見卒都婆永離三悪道なきけある里人かなと道行人もかんし  
一返の廻向してとふらハ旅人も無常心を發し見しうかひあふんと人々侍

狂哥

宗信



阿保親王御廟大塚

跡とらんむかしを今に児か池の水に教くそとに木の文字

亡矣やかねつけんほう児か池 一十

そとはは見てちかたの露や児か池 重成

児か池水せかきさる卒都婆かな 堀 政長

児か池をいたか月の影法師 可清

かきちかせいろはちりぬる児か池 元由

氷面鏡見て化粧せよちこか池 亘休

降雪も水のありや児か池 常有

○阿保親王御廟大塚と云山也

松や是月のくさやすの塚印

大塚やとれをさるの松の雪 光榮

一十

○中村昔ハ観音堂屋敷とて大子有けるとも  
今ハ少堂入るる  
正観音石佛なり

○たト山極山也

たト山の名をもすくや姥さくら  
河州山田  
正利

○若林村永花山本寺法花寺也本国寺の末寺也

○三宅村十一面観音仰長三尺五寸春日の作天神の社有寺社僧有

○瓜破村弘法内通り在し時瓜を進ける謂有て瓜よりと云也

○城連寺村観音堂昔ハありけると旧跡あり

○天見山と云社枯木村領内ニ有あまきなむらと云ハすと也

中ハ牛頭天王東ハ春日大明神西ハ我七村の氏神と也

行基居住の寺あり

○油上村ゆかじの薬師砂村の薬師共云石佛也仰長一尺二寸

○住道村むんち慈現寺本尊聖観音繪佛也全園の葦也

仰長二尺在又木像正観音仰長一尺六寸

候初やは沙婆婆慈現地主の聲  
友好

法の花よまんぢりもちりの枝もなし  
成之

慈現ある木尊をかけよ郭公  
ト人

己が在所名乗れほとくますんぢ村  
友定

時鳥なけはあやむにまげんとて  
栄貞

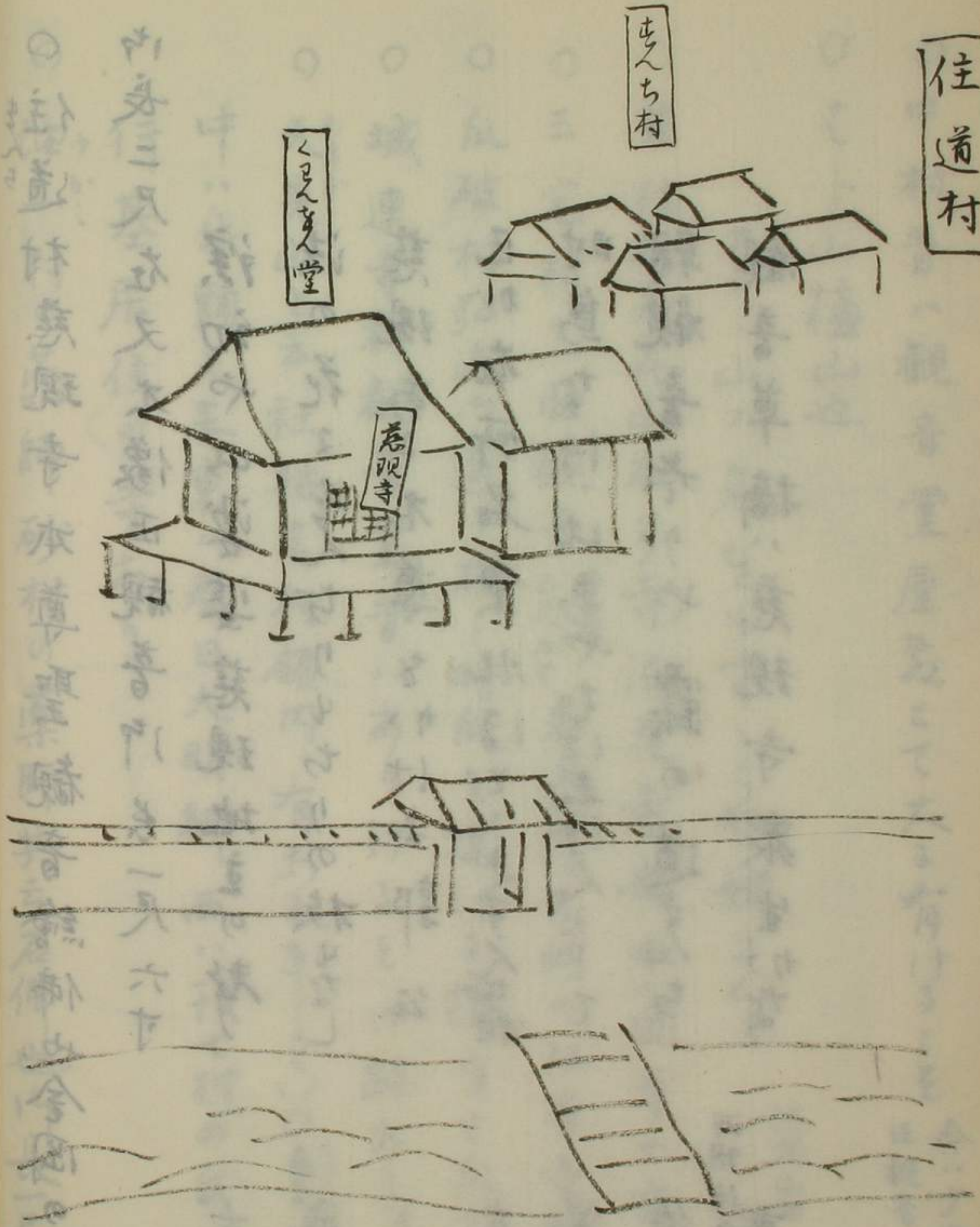
朝観音冬りや露の道まんぢ  
俊栄

観音草摘ハ慈現寺衆生かな  
河州住る  
重勝

封書封

住道村

まへち村



○塚本の狐是ハ布忍ニ塚有泉州信田の狐ハ女塚本

の狐ハ男志のたへ通ひけるとそ両所狐の名所なり

さすかたなるつかもと茂る木立かな

一志

塚とのきつぬをけてや女郎花

栄貞

○布忍

布瀬と  
いひならす

七村有昔ハ大伽藍所とそ文池村多本尊毗沙門

向井村布忍山永貞寺本尊土面観音行基并作四尺八寸五分

高木村布忍山東之坊本尊十一面観音唐鑄佛即長九寸有

狂奇

栄貞

観音のおまへまかゝるかぬの緒ハ所からとて布忍なりけり

貞弘

布忍川そこをひくたるとゆふたちのたちま池川のさき子成けり

狂言

夕たちに大水おれを布忌川を、何丈何尺かある  
日返し

秀綱

澤久

夕たちより大水出れ、布忌川浪多き志、はまてを、もるに

系に、より物や布忌の川柳 安求

卯の花の波、さらき、布世川 光宗

波や、志かよ、まゝる、ち、この布瀬川 政公

布瀬川、鮎のさし、みや、糸造 重成

涼し、き、や、きて、も、見、よ、か、布瀬川 清重

川、は、ら、を、さら、も、布忌の、水、かな、好貞

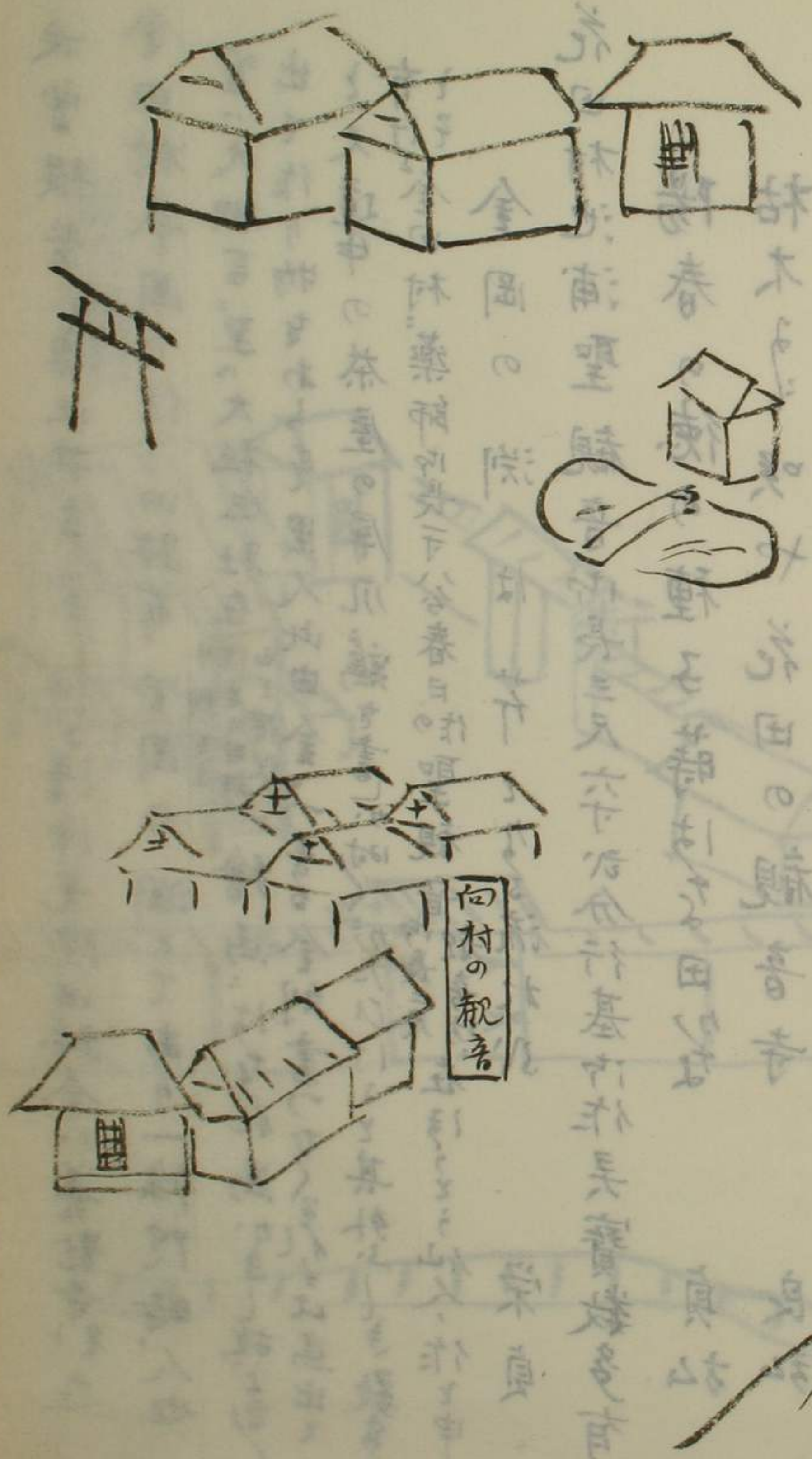
水、日、や、水、張、を、ま、る、布忌川、則武

布忌七村

高木村 観音

ぬのせ川

向村の 観音





○長曾根昔ハ真正井ましましける清淨光院旧跡今ハ善龍寺ト在  
 ○金田村金園の住一旧跡有金園の淵とてあり一條院時人也  
 官ハ大納言ニ至ル大社三社在牛頭天王 住吉大明神 山王権現 繪馬ニはなれ馬かきし故と云  
 出て作り物をあらを里人此由金ニつきる全刻書つなくそれは馬出ス  
 と又道中ノ茶屋ノ屏風ニ鶏を書しか時くがたひけると其外ふしき数多  
 有ける金田村ニ薬師也長寸谷春日ノ聖観音長三尺 観音坊 在ほつとう仙人ノ作と申

○花田村池浦聖観音也長三尺六寸五分行基也作天寶數多有

陽春の徳の種子時はな田かな  
 貞弘  
 枯木もも咲や花田の観音寺  
 良弘  
 ちりぬるハあきはなたなるさくら  
 正寛  
 さ月待花田子来なけ早苗鳥  
 政公  
 穂ハほきつ咲もこのりの花田ハ  
 同

花田村

大田村



花田の観音

